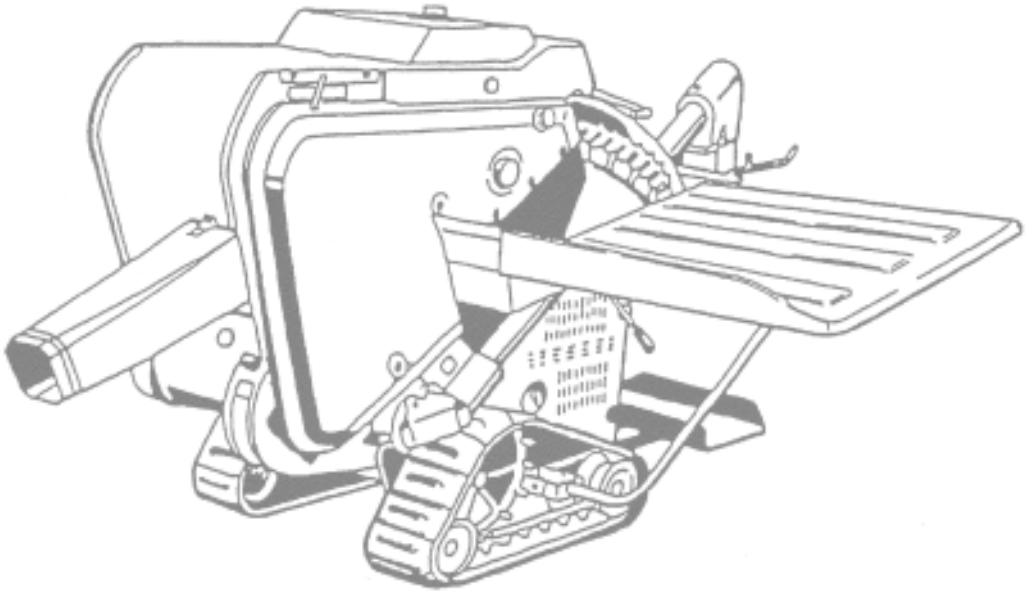
ハーベスタ

取扱説明書

MH 56



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

ハーベスタ重要安全ポイント

1．脱穀作業をするときは、
脱穀チェン・回転部に 注意します。

2．ハーベスタを動かすときは、
安全力バー類が組み付いている事を確認 します。

3．ほ場へ出入りするときは、
スピードを落としあぜに直角に 走行します。

4．ハーベスタや作業機を点検掃除するときは、
必ずエンジンを停止し、エンジンや作動部が停止したことを確認 します。

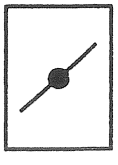
5．補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし **安全を確認** します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を⚠を付して説明のつどとり上げております。
よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。これらの表示に従って誤操作のないようにご使用ください。


チョーク

はじめに

- この度は、弊社ハーベスタをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- この説明書は、ハーベスタを使用する際に是非、守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、ハーベスタを適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。記載以外についても運転される皆様ご自身が安全確保に細心の注意をはらってご使用ください。
- このハーベスタは、稲・麦脱穀用です。使用目的以外の作業及び改造などは決して行なわないでください。
- ハーベスタを初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み、十分理解され安全・確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。
- ハーベスタを貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をハーベスタに添付してお渡しください。
- ハーベスタに貼られた⚠の表示がある安全表示ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合、および安全表示ラベルが汚損したり、はがれた場合は、速やかにお買いあげいただいた、販売店・農協にご注文ください。なお、安全表示ラベルは必ず所定の位置に貼ってください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。
  その際には、本書の内容およびイラストなどの一部が、本ハーベスタと一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- もしおわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買いあげいただいた販売店・農協にご相談ください。
- 取扱説明書の中の⚠ 重要 表示は、下記の様に安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　要　度
⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
重要	製品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

目　次

ハーベスタ重要安全ポイント …… I
はじめに …… II

⚠ 安全のポイント …… 1

安全な作業をするために …… 1
安全表示ラベルについて …… 10
安全表示ラベル貼付位置 …… 11

保証とサービスについて …… 12

各部の名称と働き …… 13

各部の名称と機体方向 …… 13
名称と働き …… 15

毎作業前点検 …… 18

各部の給油 …… 18
各部の注油 …… 18
緊急エンジン停止スイッチの作動確認 …… 19

運転のしかた …… 20

移動と運搬 …… 20
エンジン始動 …… 20
エンジン停止 …… 21
発進と運転のしかた …… 21
自動車等への積込み・積降ろしについて …… 23
自動車等での運搬 …… 24
ほ場への出入り …… 25
ほ場内の移動 …… 26

作業のしかた …… 27

快適作業のための作物とほ場 …… 27
作物の条件 …… 27
ほ場の条件 …… 27
格納部品の取付けかた …… 28
稲置台 …… 28
排出筒 …… 28

排ワラ装置 …… 28
籾処理装置 …… 28
4番受袋 …… 28
作業に適した調節のしかた …… 29
回転計の調節 …… 29
排塵量の調節 …… 29
吸引風量の調節 …… 30
選別仕切板の調節 …… 30
吸引板の調節 …… 30
脱穀作業のしかた …… 31
脱穀部の運転 …… 31
稲束の供給 …… 32
回転計の調節 …… 32
脱穀部の緊急停止 …… 32
籾袋の交換 …… 33
不調時の対応のしかた …… 34
エンジンがかからない …… 34
エンジンの力がない …… 34
選別が悪い …… 34
籾の飛散が多い …… 35
こぎ残りが多い …… 35
こぎ室内でゴトゴト音がする …… 35
点検整備 …… 36
点検整備一覧表 …… 36
使用者が行なってはいけない修理 …… 37
使用済の資材の処分について …… 37
オイル類の点検整備 …… 37
エンジンオイルの交換 …… 37
走行ミッションオイルの交換 …… 38
脱穀ギヤーオイルの交換 …… 38
点検、整備作業をしやすくするために …… 39
防塵装置の点検整備 …… 40
エアークリーナの掃除 …… 40
リコイルスタータの掃除 …… 40
燃料コックの掃除 …… 41
各部の掃除 …… 42
ワイヤとロッドの点検整備 …… 44

駐車ブレーキの調整 …… 44
サイドクラッチロッドの調整 …… 44
脱穀クラッチワイヤの調整 …… 45
走行クラッチロッドの調整 …… 45
アクセルワイヤの調整 …… 45
ベルト、チェン、クローラの点検整備 …… 46
各ベルトのテンション調整 …… 46
脱穀チェンの調整 …… 46
クローラの調整 …… 47
その他の点検整備 …… 48
こぎ歯、受網のスキマ調整 …… 48
切刃の交換 …… 48
点火プラグの調整 …… 49
長期格納時の手入れ …… 50
清掃のしかた …… 50
燃料の抜きとり …… 50
格納のしかた …… 50
サービス資料 …… 51
推奨潤滑油一覧表 …… 51
純正オイル一覧表 …… 51
諸　　元 …… 52
主な消耗部品一覧表 …… 53
付属工具一覧表 …… 53
ベルトサイズ一覧表 …… 54

⚠ 安全のポイント

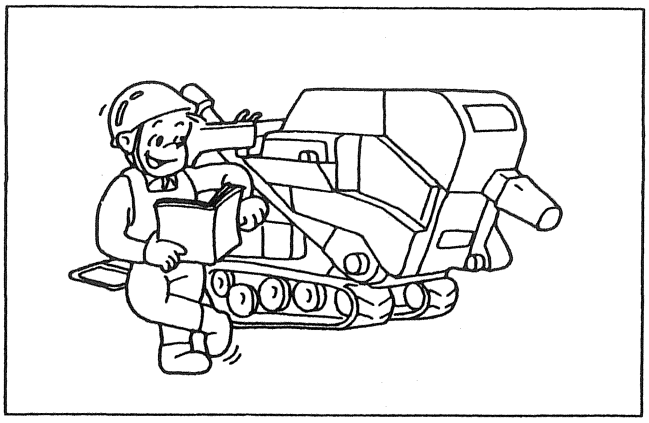
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

安全な作業をするために

■運転者の条件

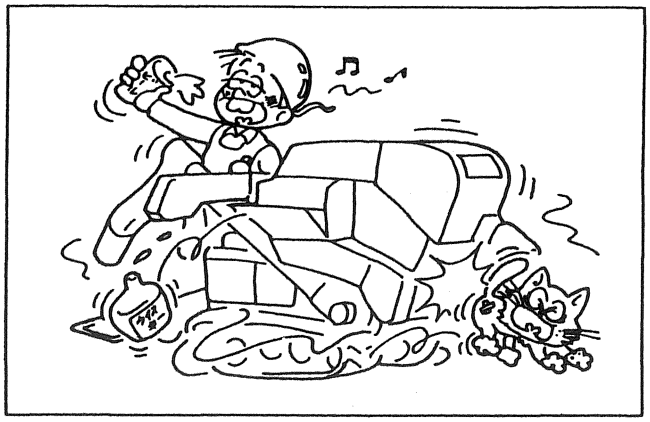
⚠ 注 意

この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。



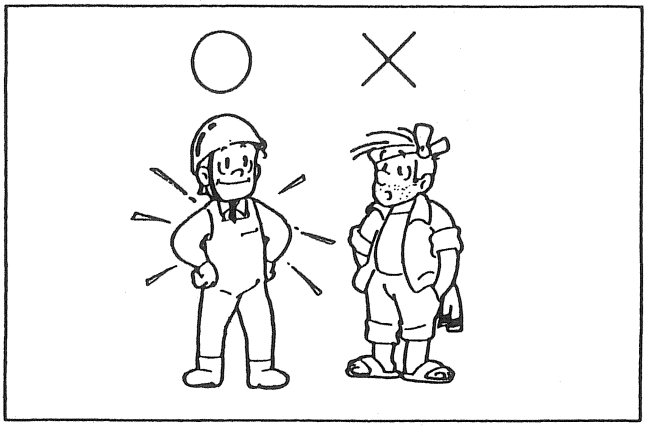
⚠ 警 告

飲酒時、過労、病気、薬物の影響により正常な作業ができない時、妊娠している人、18才未満の人、未熟練者の人は作業をしてはいけません。このような時作業を行うと誤作動などで思わぬ事故を引き起こします。作業する時は、必ず心身とも健康な状態で行なってください。



⚠ 警 告

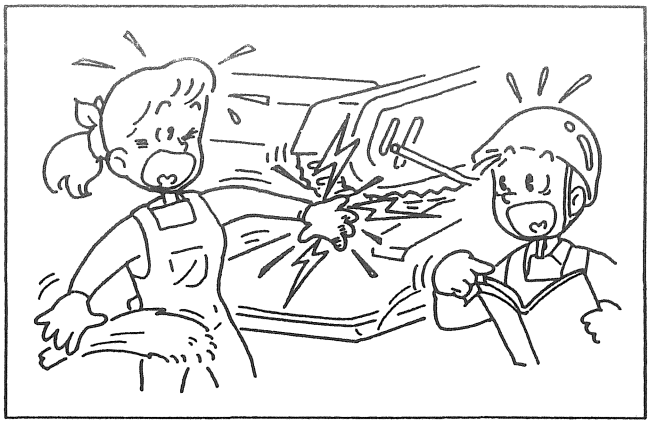
作業に適した服を着用してください。
はちまき・首巻き・腰タオルは厳禁です。
機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあるのでヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきの無い服装をしてください。



■人に機械を貸すときは

⚠ 警 告

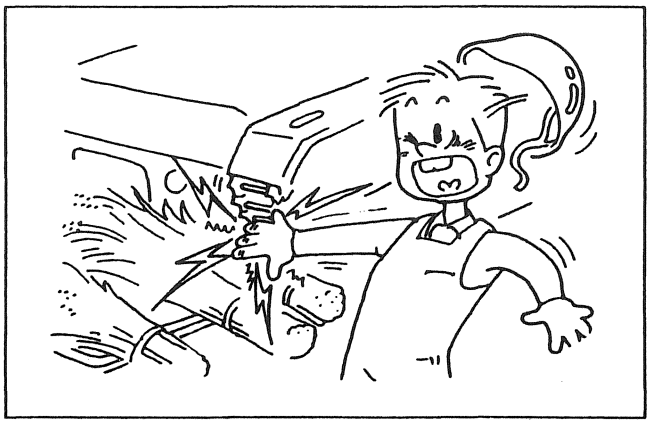
機械を貸すときは、機械を正しい状態にしてから貸してください。また取扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



■作業を開始する前に

⚠ 注 意

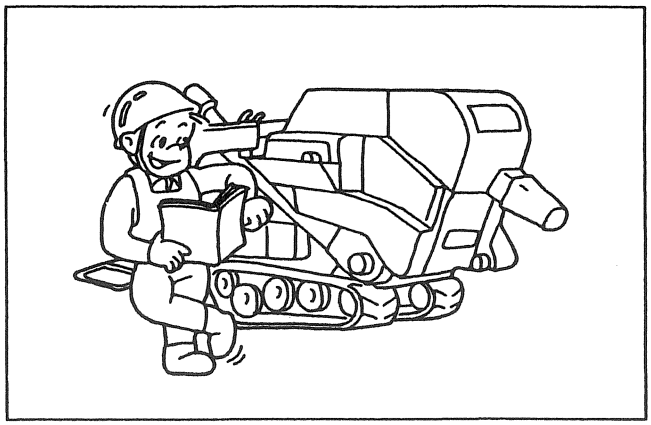
無理のないゆとりある作業計画をたてましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。



⚠ 警 告

点検整備について

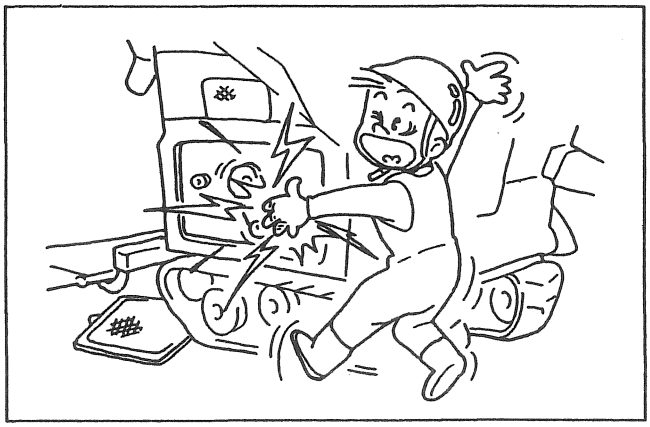
取扱説明書に従って点検整備を実施しましょう。これは機械を長持ちさせると共に、安全で効率的な作業が行なえる第一歩です。



⚠ 注 意

安全カバー類の装着確認

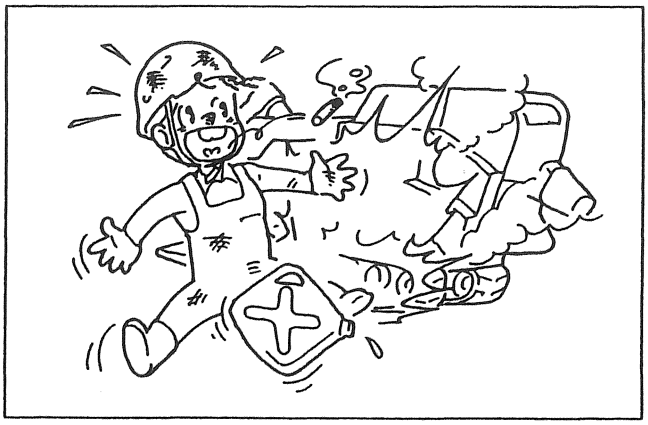
安全カバー類を外したままになっていないか確認しましょう。外したまま作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。



⚠ 危 険

燃料補給時火気厳禁

燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。またエンジンは必ず停止し、エンジン周辺および過熱部分が冷えてから補給してください。



■エンジンの始動と発進

⚠ 警 告

室内では十分に換気を

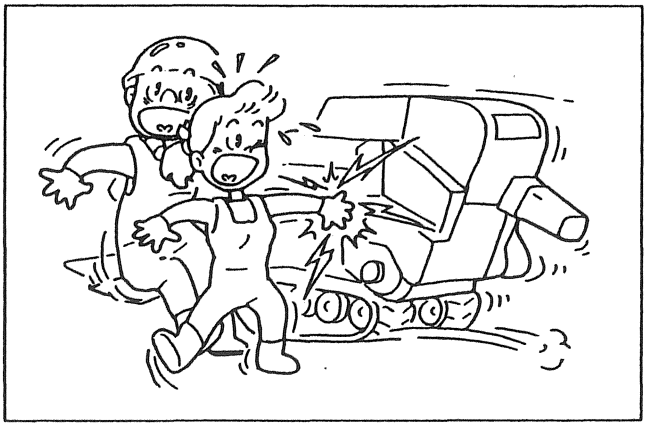
点検・整備に限らず、室内でエンジンを掛けるときは、窓を開けて、換気を十分にして行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



⚠ 注 意

エンジンの始動は周囲を確認してから

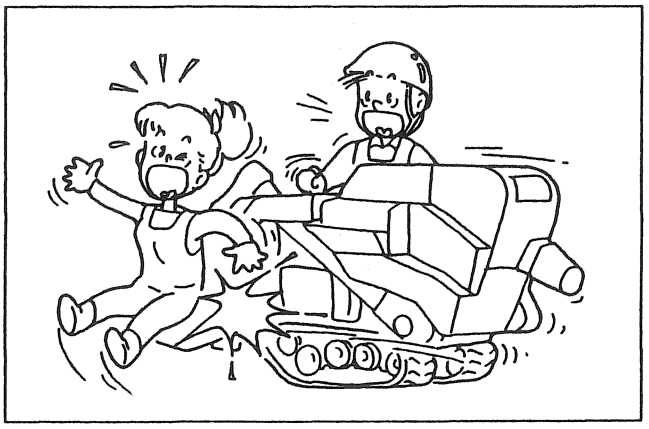
エンジンを始動するときは、変速レバーの位置が「止・(中立)」その他レバー類の位置が「切」であることと、周囲の安全を確認してから行なってください。確認を怠ると、急発進したりして大変危険です。



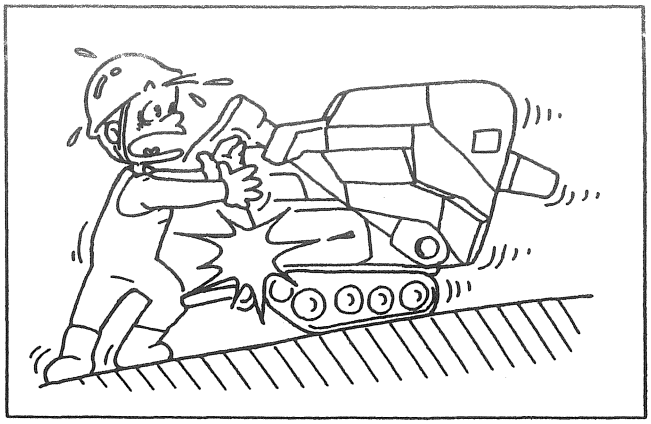
⚠ 注 意

急発進は危険

発進するときは、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



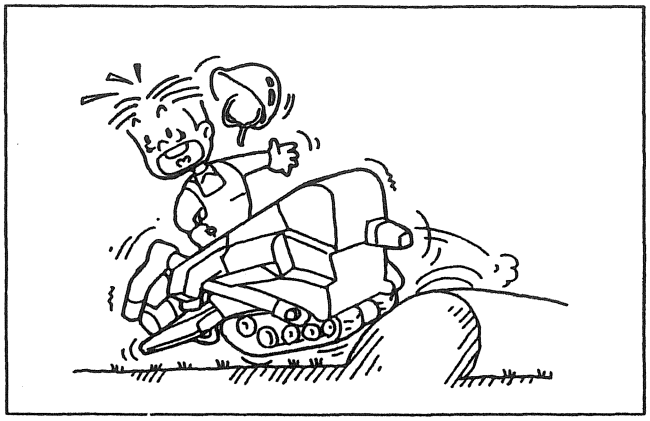
■走行するときは



⚠ 警 告

日常点検について

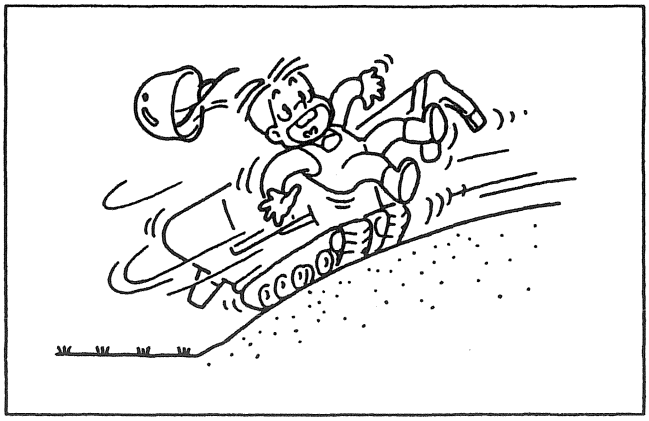
作業する前に必要な点検は必ず行なってください。特にブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



⚠ 警 告

正しい運転操作で

クラッチは正しく操作し、わき見運転をしてはいけません。接触事故や転落事故を引き起こす原因になります。

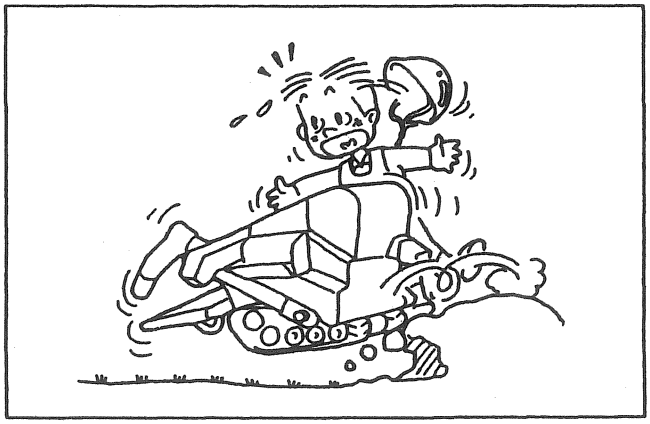


⚠ 警 告

坂道走行

坂道では、急な旋回をしてはいけません。急旋回すると、転倒事故の原因になり大変危険です。

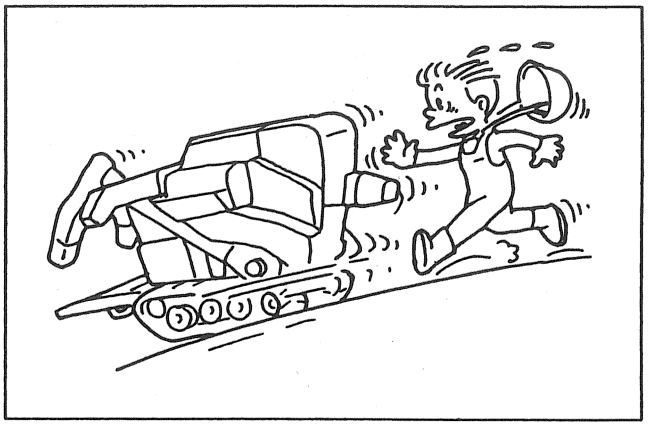
また坂道を登り、下りするときは、エンジン低速でゆっくりと行なってください。



⚠ 警 告

道では路肩に注意

側溝のある道や、両側が傾斜している道を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。路肩が崩れて、転倒したりして大変危険です。



⚠ 注 意

機械から離れるとき

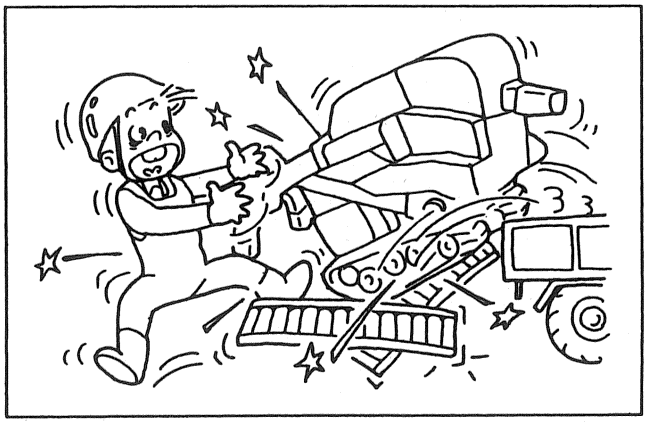
機械から離れるときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、歯止めをしてください。また、止める所は、広くて平らで、地面の硬い場所を選んでください。そうしないと機械が、自然に動き出したりして大変危険です。

■公道走行禁止

⚠ 警 告

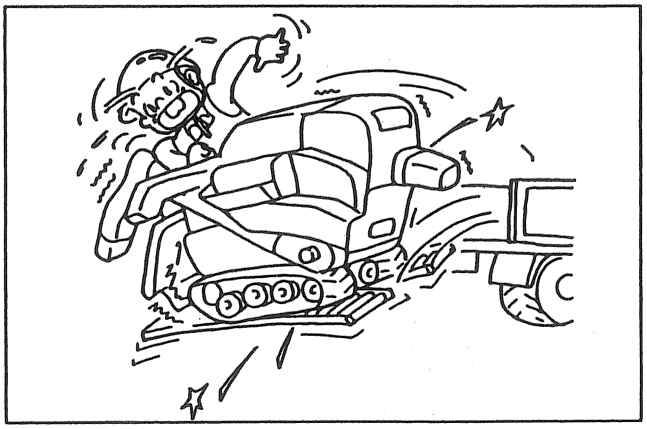
この機械は、公道を走行することはできません。移動するときにはトラック等で輸送してください。

■トラックへの積込み・積降ろし



⚠ 警 告

積込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「P」または「1速」か「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めを行なってください。これを怠ると、積込みや積降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 警 告

積込み・積降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミを使用し、直進性を見定めて、積込みは「前進」、積降ろしは「後進」で、ゆっくり行なってください。これを怠ると、転落事故の原因になり大変危険です。

⚠ 警 告

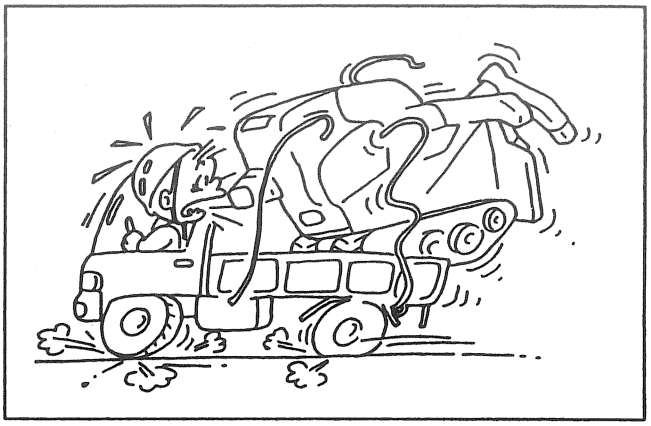
積込み・積降ろし中は、サイドクラッチを操作してはいけません。機体が横ブレして、転落事故の原因になり大変危険です。

⚠ 警 告

運搬するとき

トラック等で運搬するときは、必ずロープ等で荷台に固定してください。

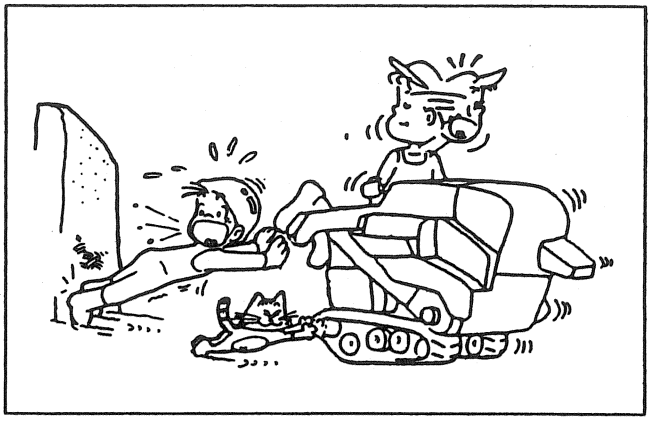
また、運搬中の運転は、急発進・急旋回・急ブレーキをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。



⚠ 警 告

後進時には、後方の障害物との安全距離を確認してください。

怠ると、機械と障害物にはさまれ大変危険です。

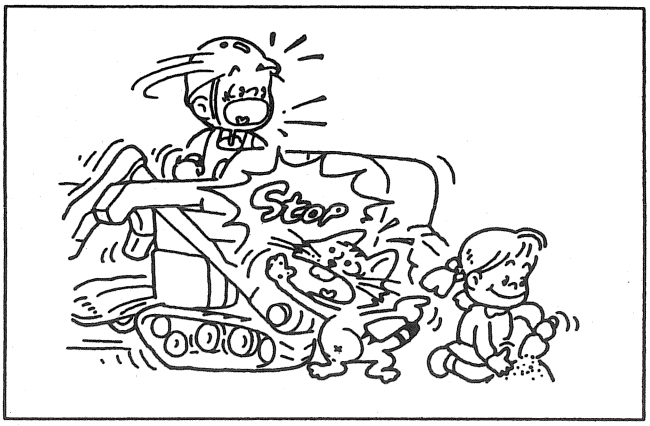


■作業中は

⚠ 警 告

作業中は回りの人に注意（特に子供）

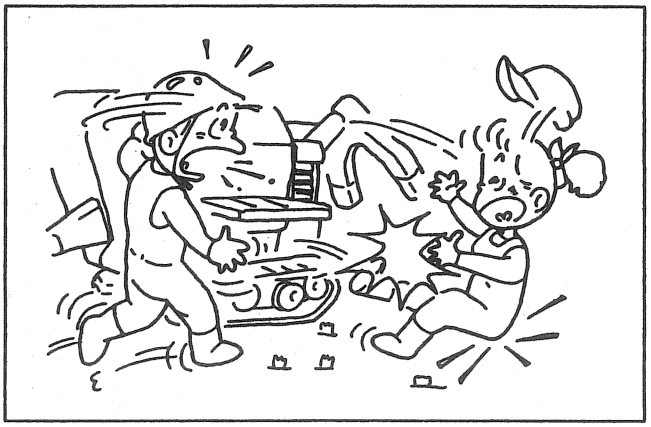
作業中は、人やものや動物などを機械に近づけてはいけません。機械自体や作業による飛散物などで、傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



⚠ 警 告

作業開始は合図を

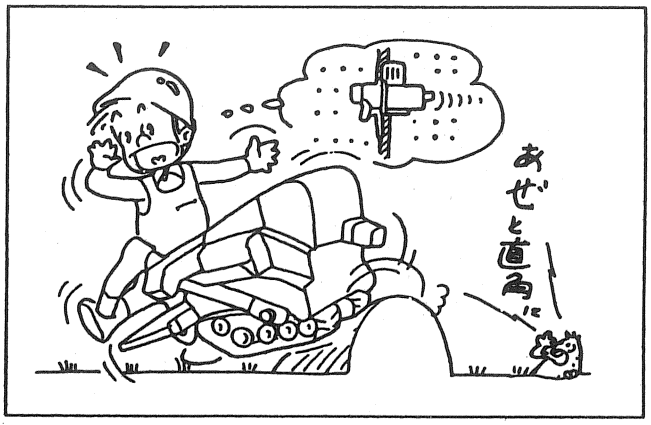
作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業する場合は、声をかけ合図してから行なってください。怠ると、傷害事故の原因になり大変危険です。



⚠ 警 告

あぜ越え時の注意

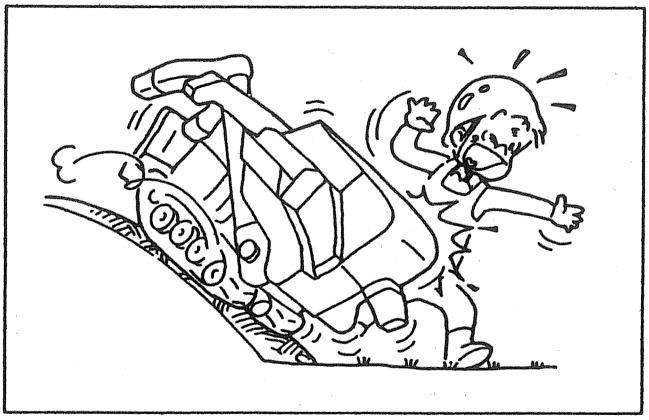
あぜを横断するときは、エンジンを低速にして、あぜと直角にゆっくり走行してください。斜めに横断すると、スリップや転倒の原因になり大変危険です。



⚠ 警 告

アユミを使ってほ場の出入り

あぜの高さが高い所（段差 10cm 以上）でのほ場の出入りでは、必ずアユミを使用してください。使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒する事があり大変危険です。

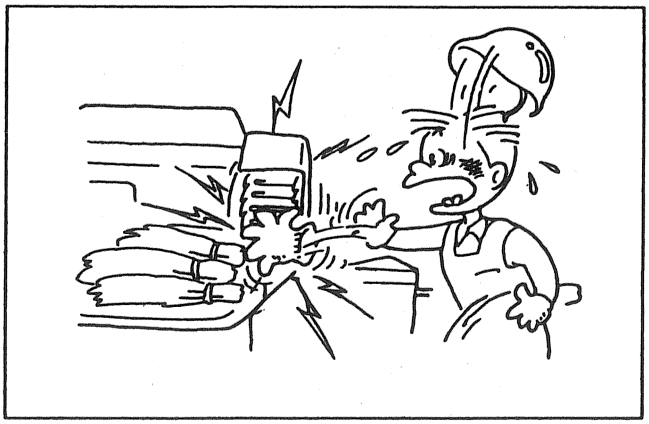


⚠ 警 告

脱穀チェンへの巻き込まれに注意

作物供給は、脱穀チェンに手や衣服を巻き込まれないよう供給口をよく見ながら作物を送り込んでください。

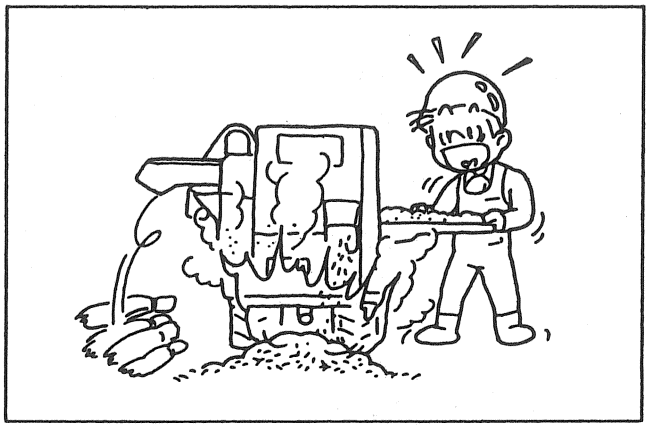
特に手袋は巻き込まれますので使用しないでください。



⚠ 危 険

ワラ屑・ワラ束の上での作業は火災の原因になります。本機の下部はマフラーの排熱で非常に高温になっています。

本機の下部のワラ屑・ワラ束を取り除いたうえで作業をしてください。



■夜間作業の禁止ついて

⚠ 注 意

夜間作業は危険なのでしないでください。

作業は早めに切上げてください。

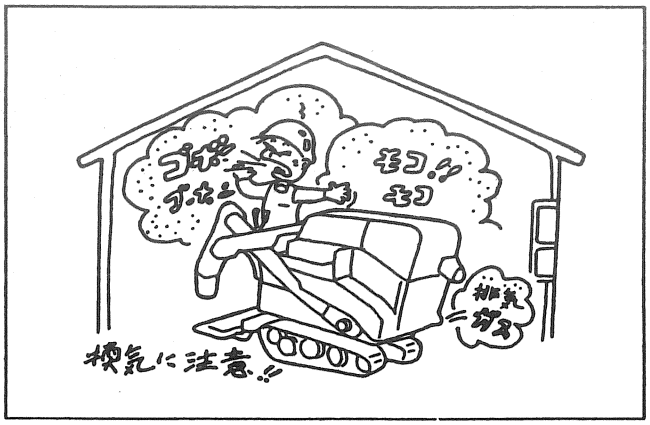
暗くなるまで作業をしていると事故を起す恐れがあります。

■点検・整備

⚠ 警 告

室内では十分に換気を

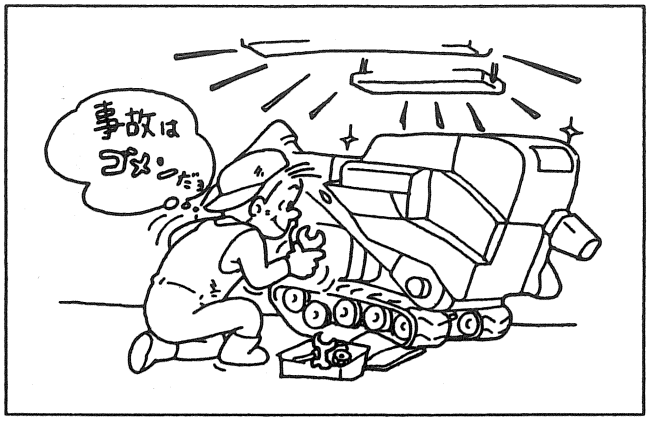
点検・整備に限らず、室内でエンジンを掛ける場合は、窓を開けて、換気を十分にして行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



⚠ 警 告

点検整備するときは、明るく平らな広い場所で行なってください。

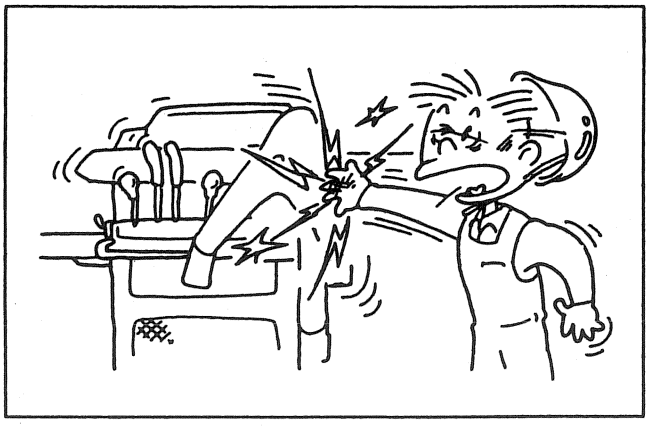
これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 警 告

点検・整備はエンジンを止め、機械のあらゆる箇所が停止し、発熱部が完全に冷てから行なってください。

怠ると手や衣服が巻きこまれたり、やけどをしたりして大変危険です。



⚠ 警 告

点検・整備は適正な工具で

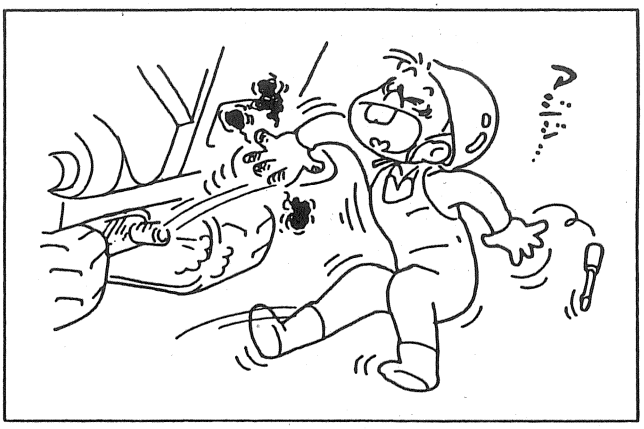
点検・整備を行なうときは、適正な工具を正しく使用して行なってください。間に合わせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし大変危険です。



⚠ 警 告

過熱部分は冷えてから

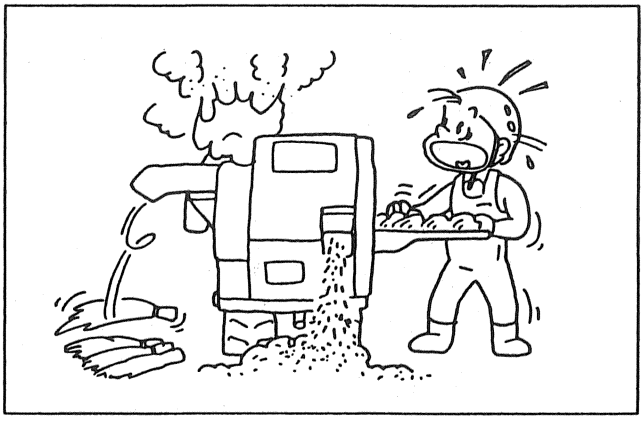
エンジンを切ってすぐに、点検・整備をしてはいけません。エンジンと、その周辺および回転部などの過熱部分が、完全に冷えてから行なってください。怠ると、やけどなどの原因になります。



⚠ 警 告

過熱部分の掃除を十分に

点検・整備を行なうときは、マフラなどの過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取除いてください。怠ると、作業中に発火したりして、火災を引き起こす恐れがあります。



⚠ 警 告

機械の改造は厳禁

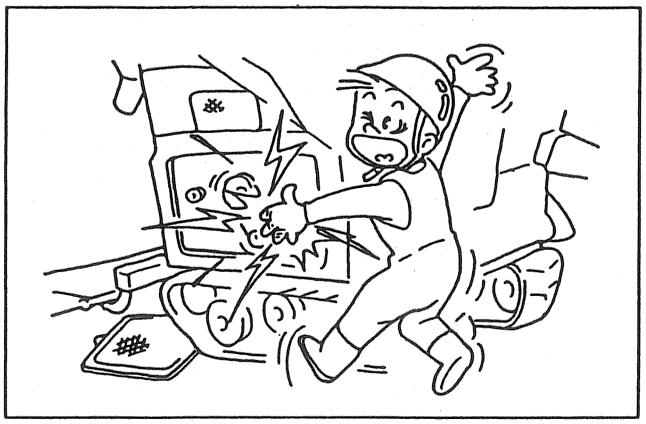
指定以外のアタッチメントの取付けや、改造は、絶対にしてはいけません。

機械の故障や、事故の原因になり大変危険です。

⚠ 警 告

カバー類は元通りに

点検・整備で取外した安全カバー類は、必ず元のとおりに取付けてください。外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因になり大変危険です。

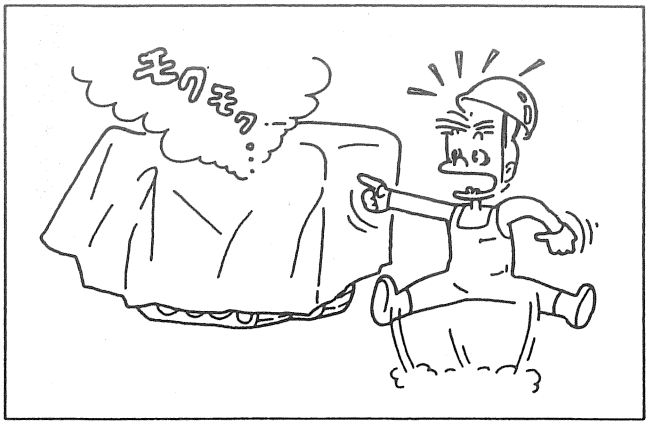


■格納・保管時は

⚠ 警 告

シートカバーは機械が冷えてから

作業が終了して、シートカバーなどを機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。



安全表示ラベルについて

(1) ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。

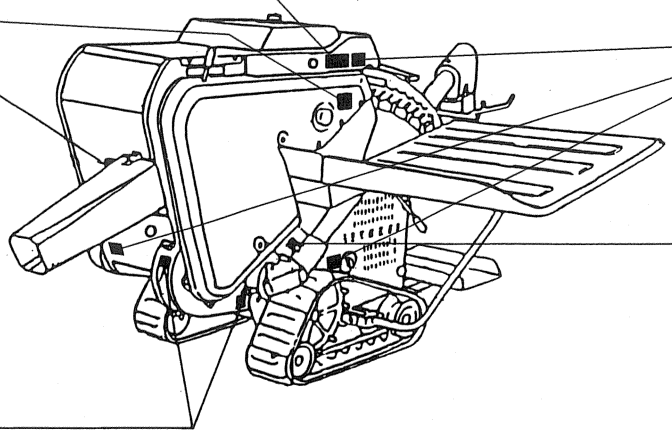
(2) 高圧洗浄機などで洗浄すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接ラベルにかけないでください。

(3) 破損や紛失したラベルは、商品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。

(4) ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

(5) 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。

安全表示ラベル貼付位置



⚠警告

手こぎ作業で、手・腕・衣服がチェンにはさまれたり、こぎ歯に巻き込まれて、ケガをする危険性があります。

1. 平らな所で走行部を止めてください。
2. 手・腕がチェン・こぎ歯にふれないように少しずつ送り込んでください。
3. ワラの巻付き・詰りの除去のときは、エンジンを必ず止めてください。

3103-905-033-1A

4317-0000-070

⚠注意

ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0

9731-0000-070

⚠注意

カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。

1675-905-012-0

9911-0000-920

⚠注意

ケガをするおそれがあります。カバーを開ける時はエンジンを停止してください。

3103-905-029-0

4317-0000-060

⚠注意

ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0

9731-0000-070

⚠危険

火災の恐れあるため、ワラ上での作業禁止

3100-901-014-0

4318-0000-350

⚠注意 機械を運転するときは、必ず取扱説明書をよく読んでから作業してください。

1. 作業前・後の点検は
   - ○燃料の給油と各部の点検は必ずエンジンを停止し、冷えてからにして、火気を近づけないでください。
2. エンジンを始動する前は
   - ○各部のカバーは所定の位置に取付けてください。
   - ○機械を運転する時は周囲の安全を確かめ合図して機械に人を近づけないでください。
   - ○室内でのエンジン始動は、窓や戸を開けて換気を十分にしてから行なってください。
   - ○駐車ブレーキをかけ、各クラッチレバーを「切」チェンジレバーは「止」(中立)にしてください。
3. 作業中は
   - ○エンジンの回転中には、作動部へ手・足・衣服を近づけないでください。
   - ○手こぎ作業時は、手・腕・衣類がチェンにはさまれたり、こぎ歯にふれたりしないでください。
4. 走行・駐停車は
   - ○発進・旋回・荒地での運転は、低速で行なってください。
   - ○傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。
   - ○軟弱な路肩・がけ際・草の生い茂っている所は、走行しないでください。
   - ○あぜを横切るときは、前進・低速であぜに対して直角に走行してください。
   - ○駐・停車は、平らな所で駐車ブレーキをかけて、各クラッチレバーは「切」、エンジンは止めてください。
   - ○坂道駐車は、クローラに「歯止め」をしてください。
5. 車への積込み・積降ろしは
   - ○平らな所で、補助者の立合誘導で行なってください。
   - ○アユミは機械に合った強度幅・長さ(荷台高さの4倍以上)のある、スベリ止め、フック付のものを使用し、左右のクローラ位置に合わせ、荷台に平行に外れないようにかけてください。
   - ○積込みは前進、車から降すときは後進でエンストしない程度の低速で行なってください。
   - ○アユミ上での機械操作は行なわないでください。
   - ○公道は自動車に乗せて移動してください。
6. 清掃は、エンジン停止確認後、行なってください。

3103-904-011-0

4317-0000-040

⚠危険

火災になることがありますので次のことを守ってください。

1. 本機の下部は、マフラの排熱で非常に高温となりますのでワラやワラクズを、必ず取除いて作業してください。
2. エンジン周囲のワラクズは常に取除いてください。
3. 給油時はエンジンを停止し燃料をこぼさないでください。

3103-904-005-0

4317-0000-030

⚠注意

ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0

9731-0000-070

⚠危険

■給油時 エンジン停止

■火を近づけないでください。

火気 厳禁

2161-901-038-0

9020-7153-860

⚠注意

初受台に乗らないでください
移動する時は必ず折りたたんでください。

3103-904-012-0

4317-0000-050

⚠注意

ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0

9731-0000-070

⚠注意

駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。

3823-901-001-0

9731-0000-600

保証とサービスについて

■本商品の使用目的、使用範囲

・この商品は稲・麦脱穀用ハーベスタです。

・使用目的以外の作業および改造などは決しておこなわないでください。

・使用目的以外の作業および改造をした場合は保証の対象になりませんのでご注意ください。

■商品の保証

この商品には、弊社保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

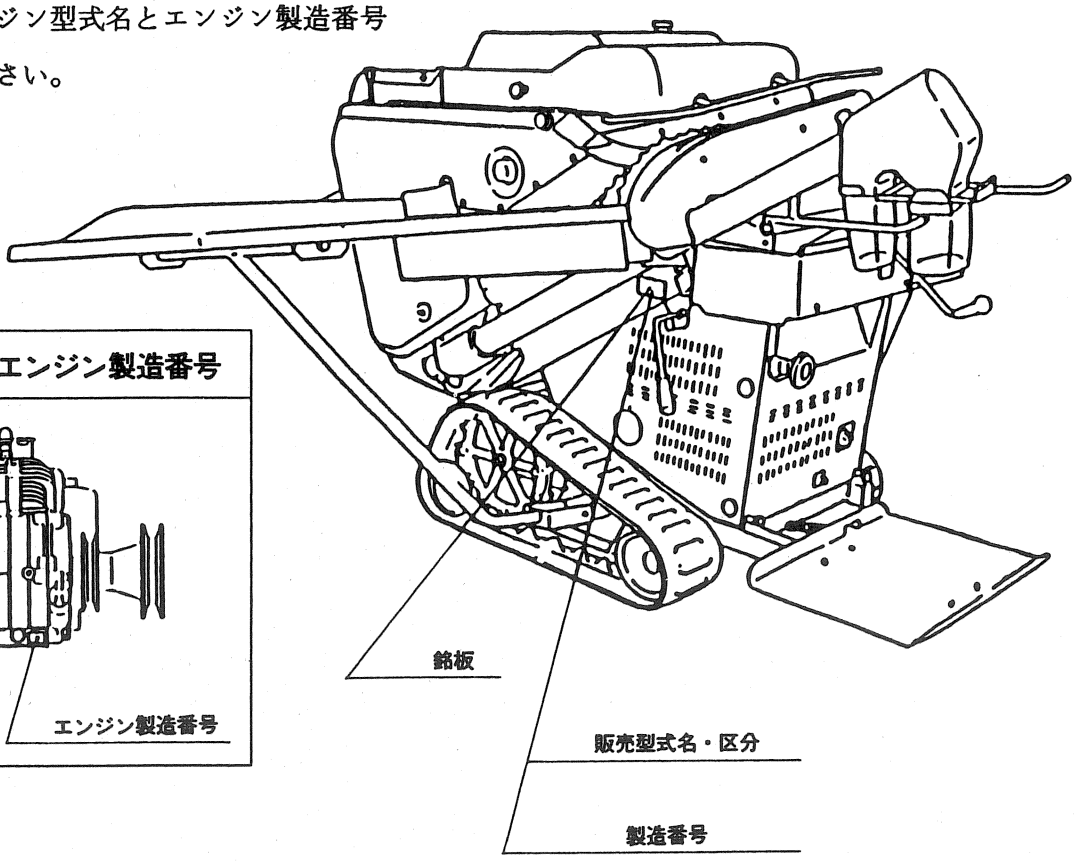
■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店・農協へお気軽にご相談ください。

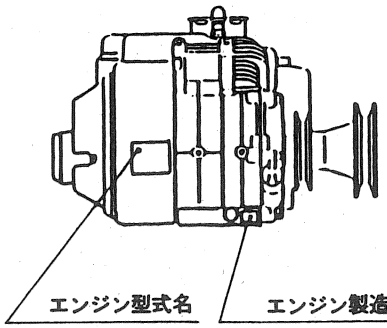
そのさい、(1) ハーベスタの販売型式名、区分、製造番号

(2) エンジン型式名とエンジン製造番号

を併せてご連絡ください。



エンジン型式名とエンジン製造番号



■補修用部品供給年限について

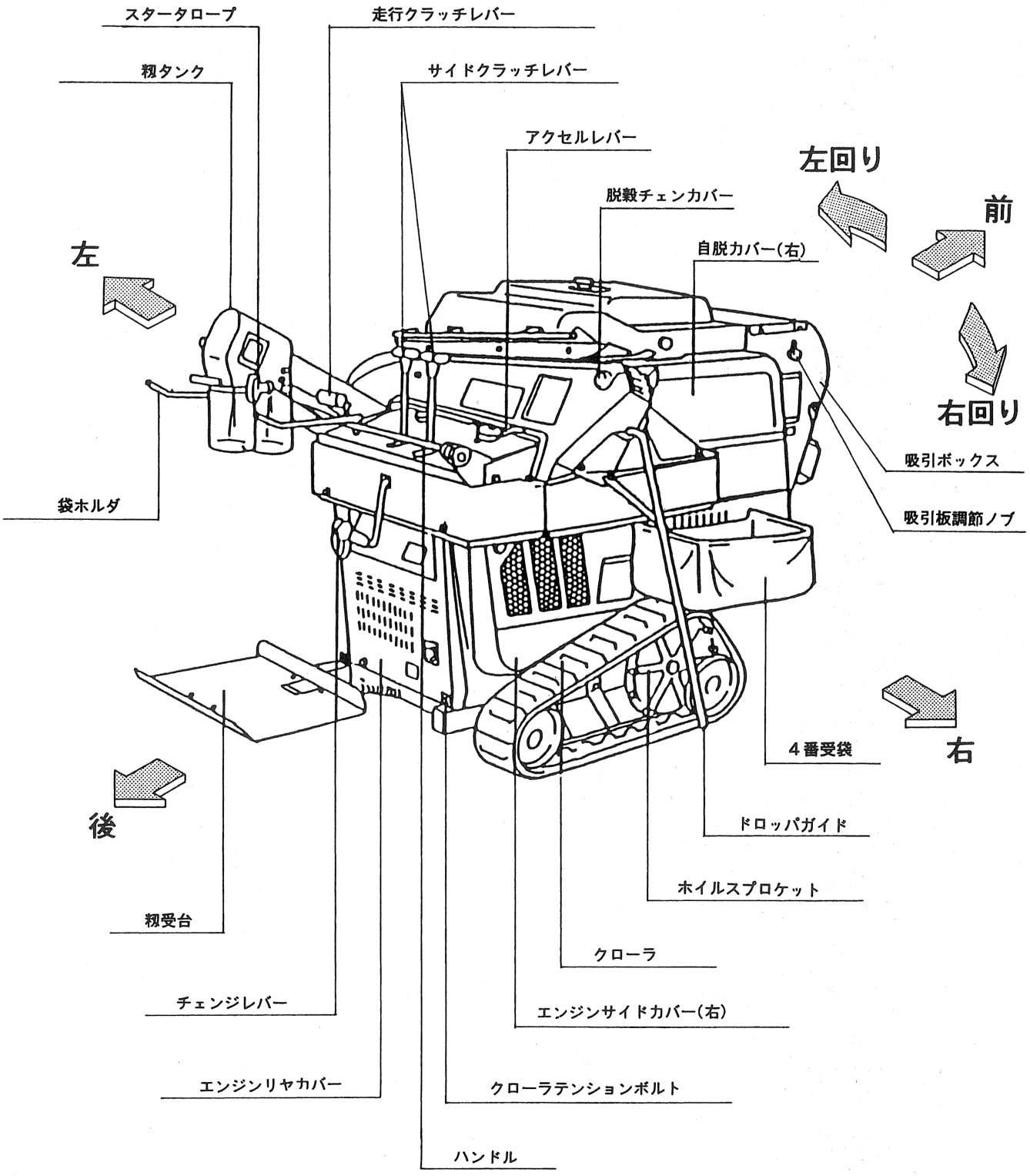
・この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後10年と致します。
ただし、供給年限ないであっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

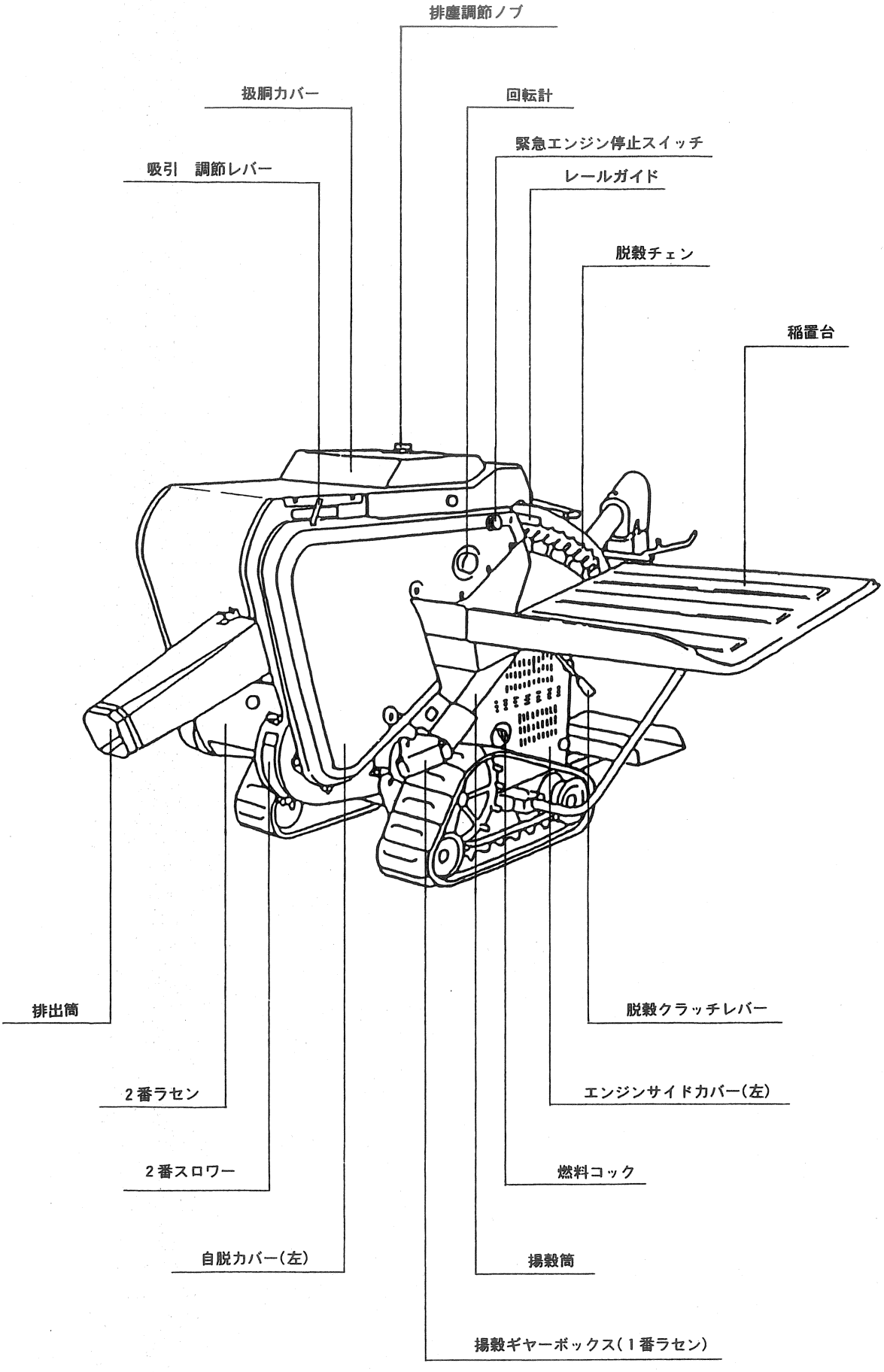
・補修用部品の供給は原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただく場合もあります。

各部の名称と働き

各部の名称と機体方向

この取扱説明書で使用している「前後・左右・左回り・右回り」などの方向は図示の通りに決めています。




排塵調節ノブ
扱胴カバー
回転計
緊急エンジン停止スイッチ
吸引　調節レバー
レールガイド
脱穀チェン
稲置台
排出筒
脱穀クラッチレバー
2番ラセン
エンジンサイドカバー(左)
2番スロワー
燃料コック
自脱カバー(左)
揚穀筒
揚穀ギヤーボックス(1番ラセン)

名称と働き

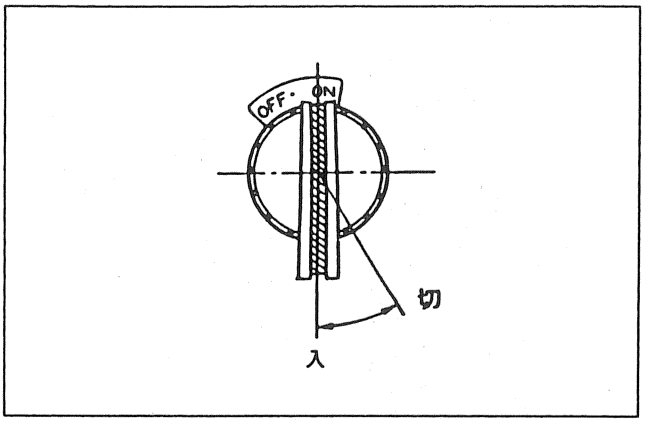
■エンジンスイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。

始動時に「入」

停止時に「切」

にします。



■アクセルレバー

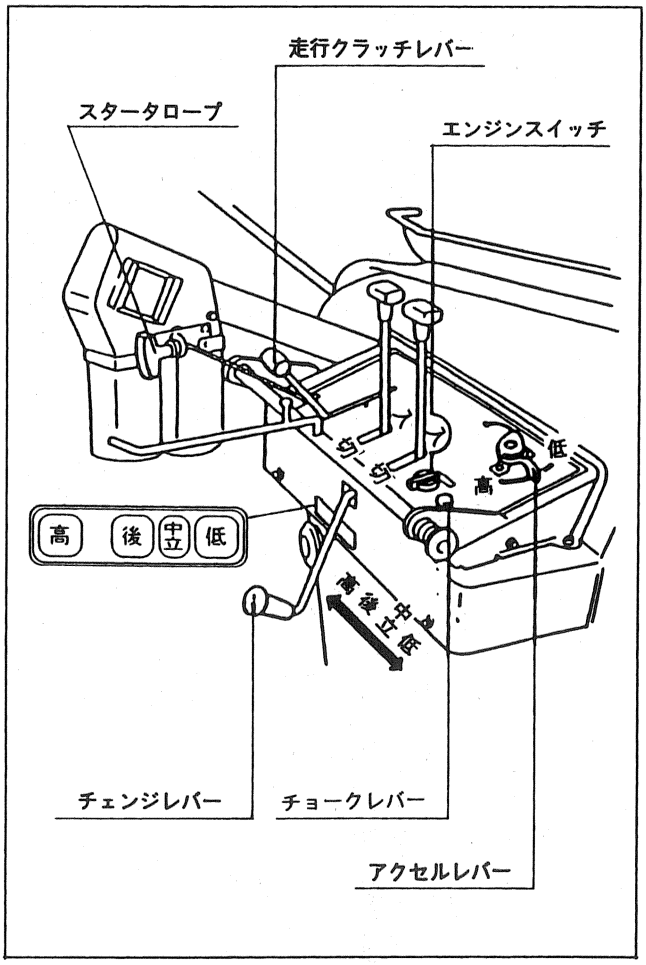
エンジンの回転を調節します。「高」側にしますとエンジン回転が上がり、「低」側にしますとエンジン回転が下がります。

■スタータロープ

エンジンを始動する時使用します。

■チェンジレバー

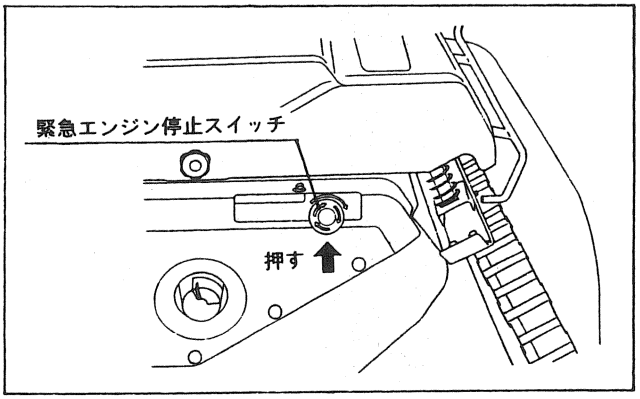
前進２段・後進１段の変速をします。



■緊急エンジン停止スイッチ

緊急エンジン停止スイッチを押すと、エンジンが停止します。脱穀作業中などに何らかのトラブルが発生した時にこのスイッチを押してください。エンジンが停止します。

再始動する時は、スイッチを右に回し、解除してから行なってください。

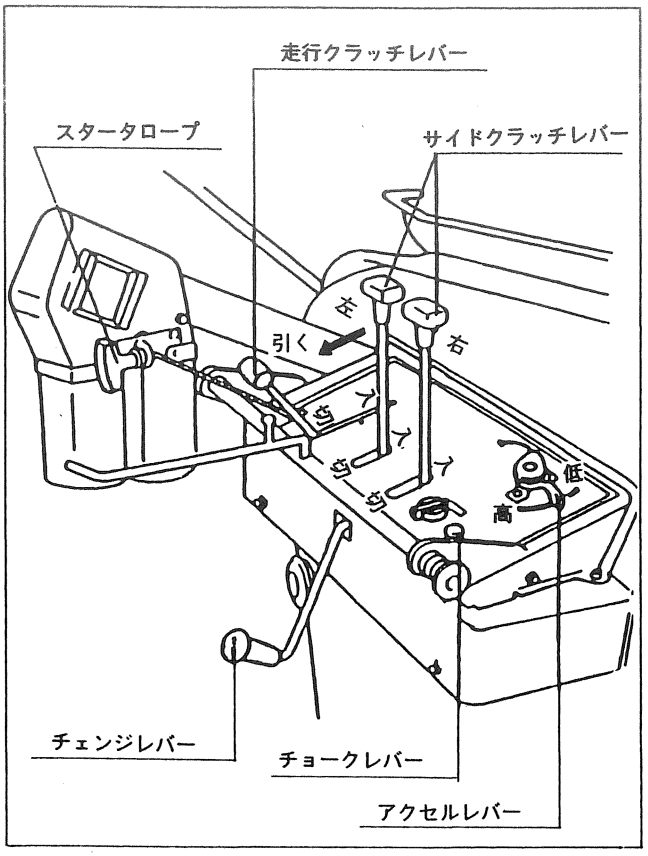


■走行クラッチレバー

エンジンの動力を走行部へ伝えます。「入」にしますと走行します。「切」にしますと停止し、駐車ブレーキが働きます。

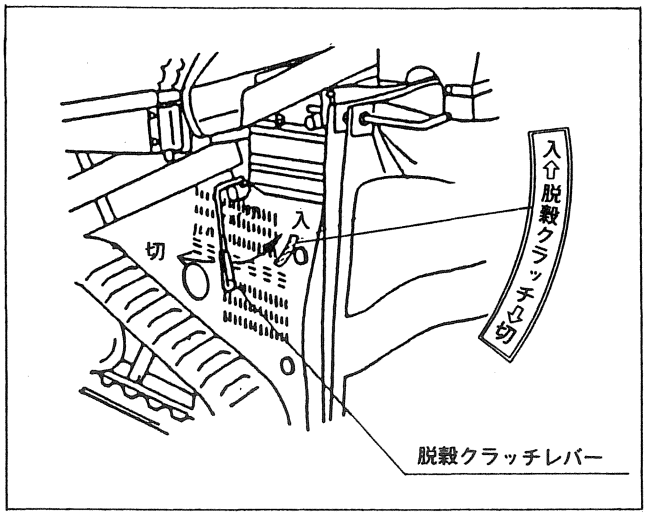
■サイドクラッチレバー

機体の進行方向を変えるとき操作します。機体はレバーを引いた方向へ曲ります。



■脱穀クラッチレバー

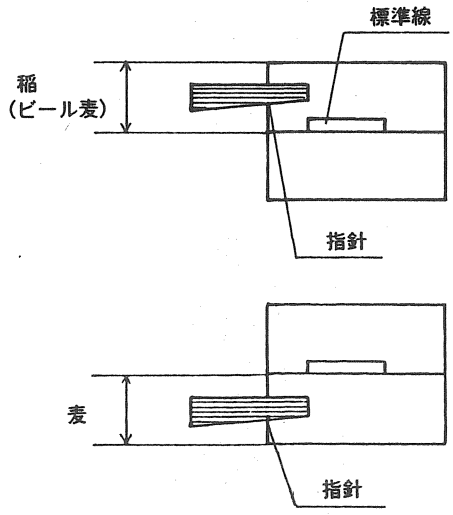
エンジンの回転を脱穀機に伝えます。「入」で脱穀機が回転します。「切」で停止します。



■回転計

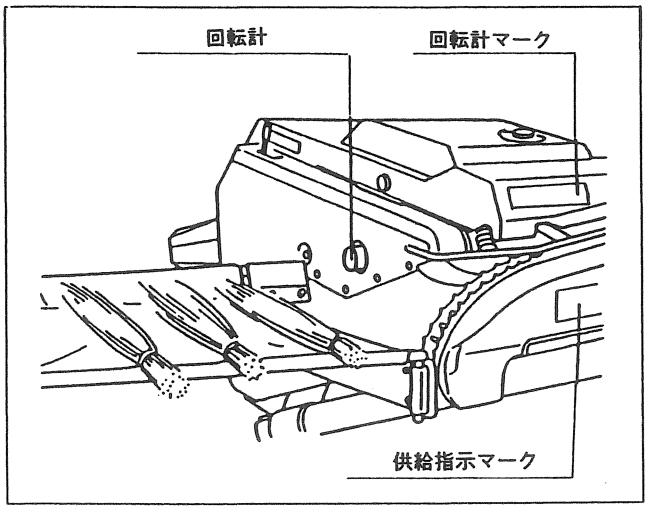
扱胴の回転数を合せます。

回転表示の見方



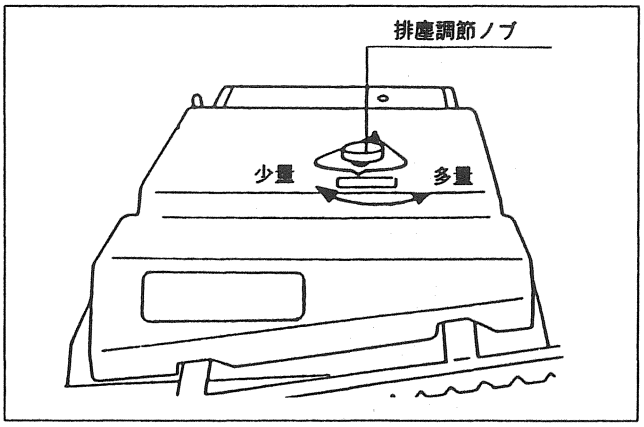
矢印の中に指針がある時、稲・ビール麦回転表示です。
標準線と指針が一致する時は稲標準回転表示です。

矢印の中に指針がある時、麦回転表示です。



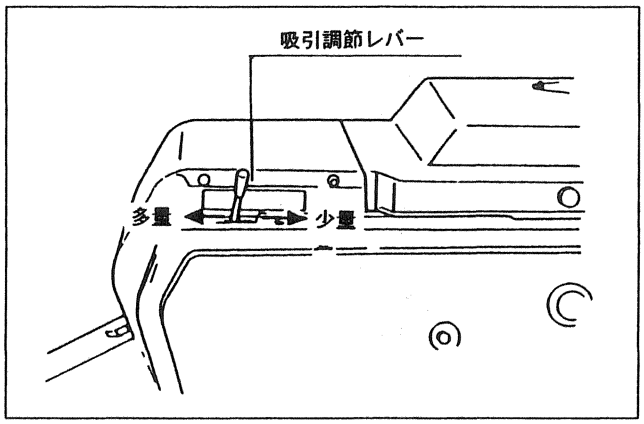
■排塵調節ノブ

こぎ室から排塵出口へ送るワラクズの量を調節します。ノブを右方向に移動させると多量に、左方向に移動させると少量になります



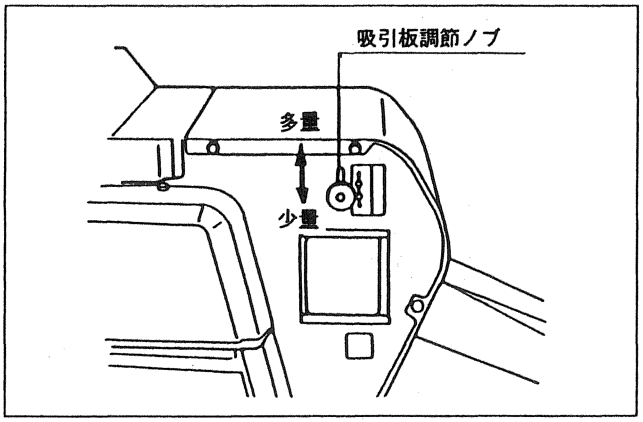
■吸引調節レバー

機外へ排出されるワラクズの量を調節します。向って右方向に倒しますと少量になり、左方向に倒しますと多量になります。



■吸引板調節ノブ

吸引ボックスの中に吸い込まれるワラクズの量を調節します。上へあげると多量になり、下へさげると少量になります。



毎作業前点検

危険

(1) 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。
守らなかった場合、火災の原因になります。

(2) 給油、注油するときは、広くて平らな硬い場所で行なってください。

(3) 給油、注油および回転部の点検は必ずエンジンを停止しエンジンが冷えてから行なってください。

(4) 燃料、オイルがこぼれた場合はきれいにふき取ってください。

(5) エンジン周辺のメンテナンスは、エンジン回転の停止を確認した後、エンジンが冷えてから行なってください。エンジン周辺のワラ屑・ワラ束は火災の原因になります。作業前に取り除いてください。

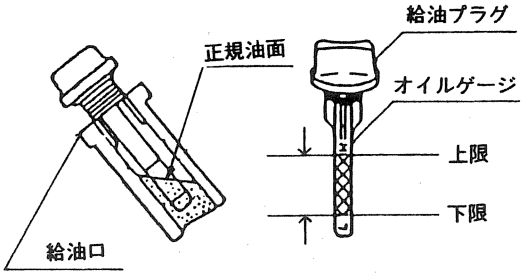
注意

点検時にカバーを開けたり、取りはずしたりした場合は、必ず元に戻してから作業してください。

■各部の給油

エンジンクランク室

- 正規油面をオイルゲージで確認してください。
- 機体は水平状態で点検してください。
- ゲージはネジ込まない状態で点検してください。

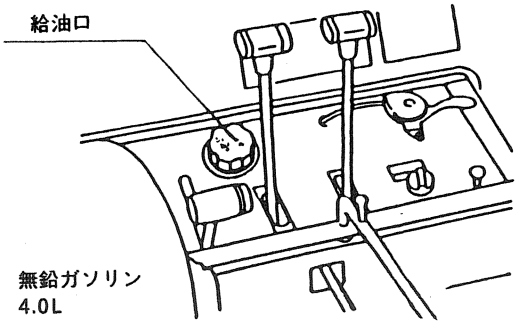


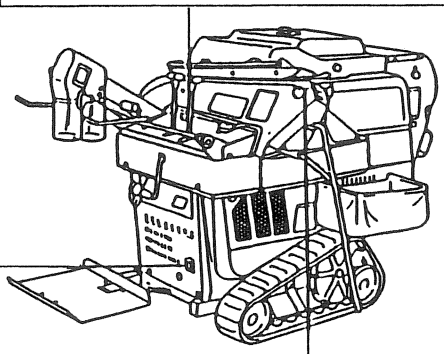
ガソリンエンジンオイル
10W-30（SF級以上） 0.6L

- 上限に近い所まで補給してください。

燃料タンク

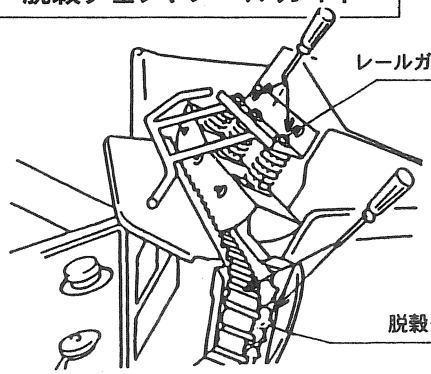
- 給油口を見ながら入れ、こぼさないでください。





■各部の注油

脱穀チェン、レールガイド



■その他注油箇所

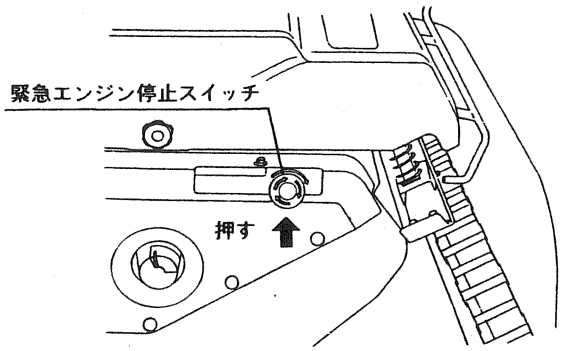
①各ベルトテンション支点部　　③テンションワイヤ

②操作レバー類の支点部　　④揺動棚摺動部

■緊急エンジン停止スイッチの作動確認

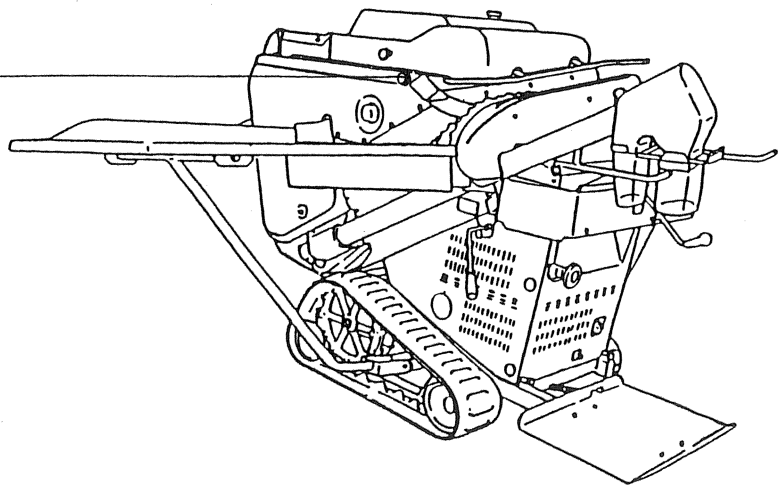
緊急エンジン停止スイッチ

● エンジンを始動した状態で緊急エンジン停止スイッチを押し、エンジンが停止するか確認してください。



注意

緊急エンジン停止スイッチを押してもエンジンが停止しない場合は、お買い上げ先で点検整備を受けてください。



● その他の作業前点検については、36ページの点検整備一覧表の毎日始業時の項目を参照してください。

運転のしかた

移動と運搬

■エンジン始動

警告

(1) 始動する前に安全カバー類が取付けてあるか確認してください。

(2) 室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を十分に行なってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。

(3) 始動する前には各クラッチレバーを「切」に、また、チェンジレバーは「中立」にしてください。

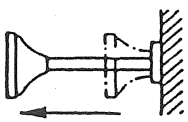
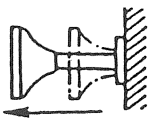
(4) エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。

(1) 走行クラッチレバー、脱穀クラッチレバーが「切」になっていることを確認します。

(2) チェンジレバーを「中立」の位置に入れます。

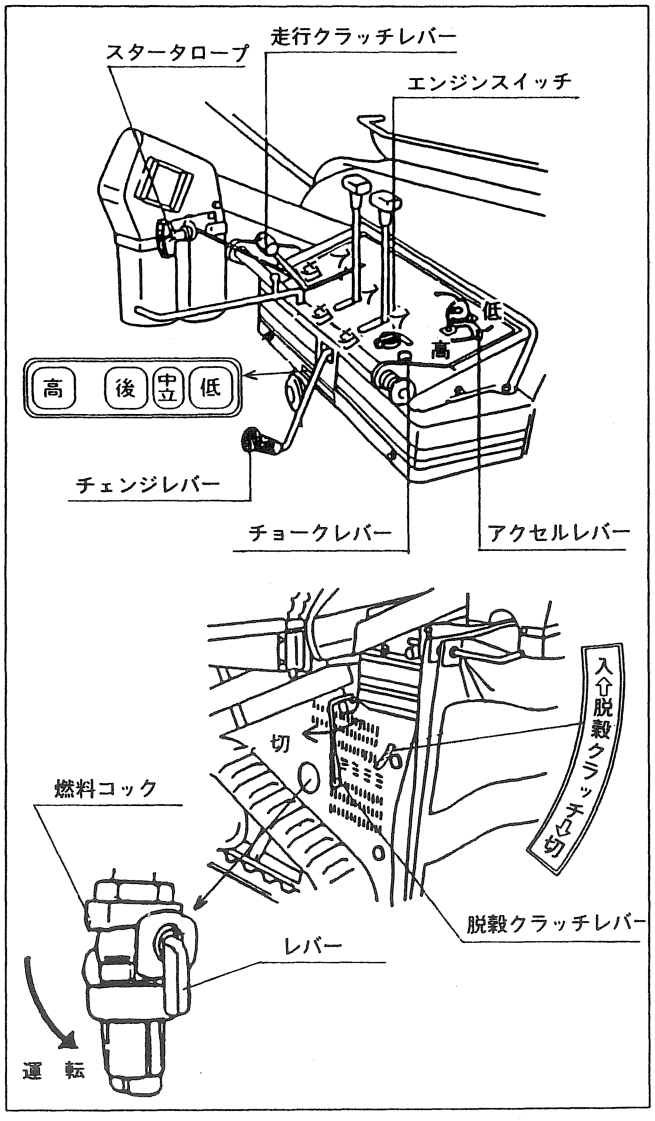
(3) 燃料コックのレバーを真下に向けて「運転」にします。

(4) エンジンスイッチを「入」にしチョークレバーを引き出します。

エンジンが冷えているとき	
エンジンが暖まっているとき	

(5) アクセルレバーを「低」と「高」の中間にします。

(6) スタータロープを軽く引きながら重さを感じるところで止め、一旦ロープを元に戻して、そこから一気に引っぱります。



重要

●エンジンを始動する前に、緊急エンジン停止スイッチが解除してあることを確認してください。

重要

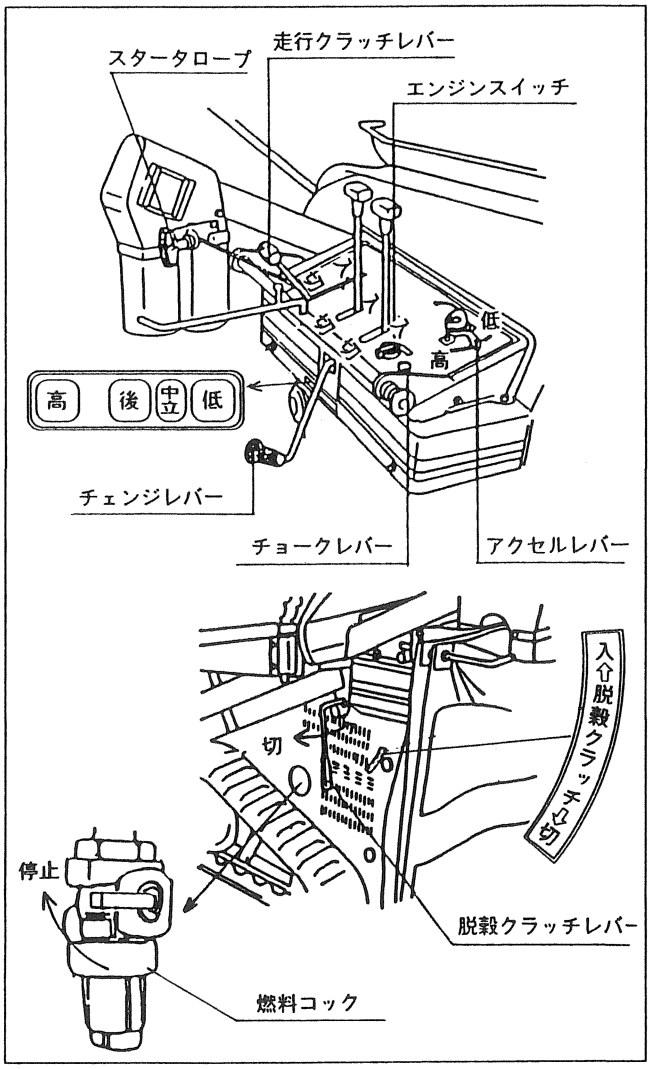
- 3回以上引っぱっても始動しないときは、そのままチョークを引き続けると燃料の吸い込み過ぎとなりますので、チョークレバーは元へ戻し、アクセルレバーを多少「高」側にして始動してください。

重要

- 本機には安全装置（走行クラッチレバー及び脱穀クラッチレバーが「切」の時にしかエンジンがかからない装置）が付いています。
- エンジンが始動したら約3分間アクセルレバー「低」で暖機運転をしてください。

■エンジン停止

(1) 走行クラッチレバー、脱穀クラッチレバーを「切」の位置にします。
(2) アクセルレバーを「低」の位置にします。
(3) エンジンスイッチを「切」にします。
(4) 燃料コックのレバーを真横に向けて「停止」にします。



■発進と運転のしかた

警告

(1) 走行の直前には必ず機械の周囲に人がいないことを確かめ、「声」で合図してください。
(2) 急発進、急制動、急旋回は、危険ですからしないでください。
(3) 走行中の右折、左折、後進は、低速で行ってください。
(4) 籾受台や機体の上には、人、もみ、物等をのせないでください。
(5) 走行中はクラッチを正しく操作し、わき見運転を絶対にしないでください。
(6) 側溝のある道や両側が傾斜している道を走行するときは速度を落として十分注意して走行してください。
(7) ハーベスタを離れる時は、平らな場所に駐車し、走行クラッチレバーを「切」にして、エンジンを停止してください。
(8) 急な坂道での走行クラッチレバーの操作は危険ですから絶対にさけてください。
止むを得ず坂道で停止する場合には、走行クラッチレバーを「切」の位置に入れ、機体に歯止めを施してください。
駐車ブレーキは、走行クラッチレバーを「切」にすると連動してブレーキが作動します。
(9) 後進時には、後方の障害物との安全距離を確認してください。
怠ると、機械と障害物にはさまれ、大変危険です。

重要

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。

■発進のしかた

(1) 走行時は稲置台、排出筒、排ワラ装置、籾受台、袋ホルダーは格納状態（28ページ参照）にしてください。

(2) アクセルレバーを「低」にします。

(3) チェンジレバーを希望する速度に入れます。

前 進	高	移動
	低	移動（坂道、傾斜地、ほ場） トラック等への積込み、 あぜ越え
後 進	後	移動、 トラック等からの積降ろし

(4) 走行クラッチレバーをゆっくり「入」の位置に入れます。

警告

公道走行禁止

この機械は、公道を走行することはできません。移動するときは、トラック等で輸送してください。

注意

駐車ブレーキはいつも正常に作動するように点検、調整を行なってください。

44ページ参照。

■旋回のしかた

旋回のしたい方向のサイドクラッチレバーを引いて「切」にします。

レバーを引いた方向に曲ります。

■変速のしかた

(1) 走行クラッチレバーを「切」にします。

(2) チェンジレバーを希望する速度に入れます。

(3) アクセルレバーを「低」にします。

(4) 走行クラッチレバーをゆっくり「入」の位置に入れます。

■停止・駐車のしかた

(1) 走行クラッチレバー、脱穀クラッチレバーを「切」の位置にします。

(2) アクセルレバーを「低」の位置にします。

(3) エンジンスイッチを「切」にします。

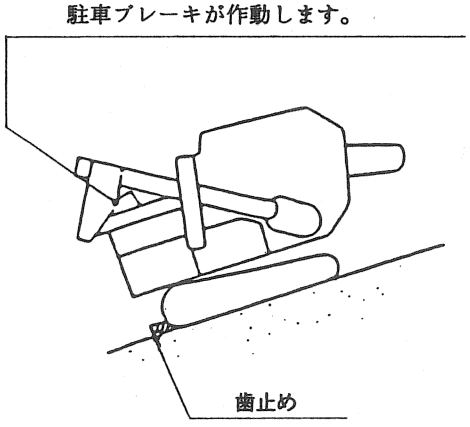
(4) チェンジレバーを「低」または「後」に入れます。

(5) 燃料コックのレバーを真横に向けて「停止」にします。

(6) 駐車ブレーキは走行クラッチレバーを「切」にすると連動して駐車ブレーキが作動します。

(7) 坂道での駐車は極力さけてください。やむなく坂道で駐車する場合は駐車ブレーキを働かせて、クローラに「歯止め」をしてください。

走行クラッチレバーを「切」にすると
駐車ブレーキが作動します。



■自動車等への積込み・積降ろしについて

警告

万一、下記の項目を守らないと転倒の恐れがあります。

(1) アユミ板は、基準以上のものを使用し、ハーベスタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。また、変形したアユミ板は使用しないでください。

(2) アユミ板のフックは荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に避けてください。

(3) アユミ板の上では、サイドクラッチレバーは操作しないでください。操作すると急に方向転換し落下する危険があります。

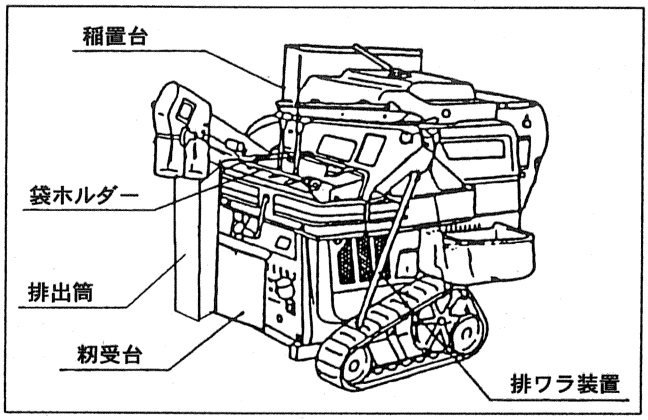
(4) 万一にそなえて、ハーベスタの周辺には、人を近づけないでください。

(5) アユミ板から荷台に移るとき、急に機体の角度が変わりますので、十分注意してください。

(6) 積み込むトラックは、エンジンを止め変速「P」または「1速」か「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めを行なってください。

(1) 周囲に危険のない平たんな場所を選んでください。

(2) 稲置台、排出筒、排ワラ装置、籾受台、袋ホルダーは格納状態にしてください。



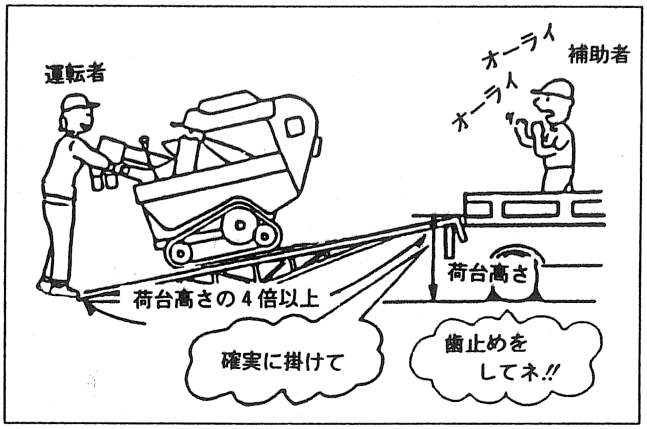
(3) 基準に合った金属製アユミ板を確実にセットしてください。

〈アユミ板の基準〉

a)長さ……車の荷台高さの4倍以上
b)幅……30cm以上
c)強度……300kg以上(片側1枚)
d)数量……2枚使用
e)すべらないよう処理してあること
f)一方の端にトラックの荷台に引掛けるフックがあること

(4) アユミの前でいったん停止し、左右のクローラがアユミ板と平行になるまでハーベスタの位置、向きを合わせてください。

(5) 積込みの場合は「前進、低速」で、降ろす場合には「後進」で、アクセルレバーは極力「低速」にして行ないます。
運転者のほかに監視誘導する補助者を1名おき、慎重に行なってください。



■自動車等での運搬

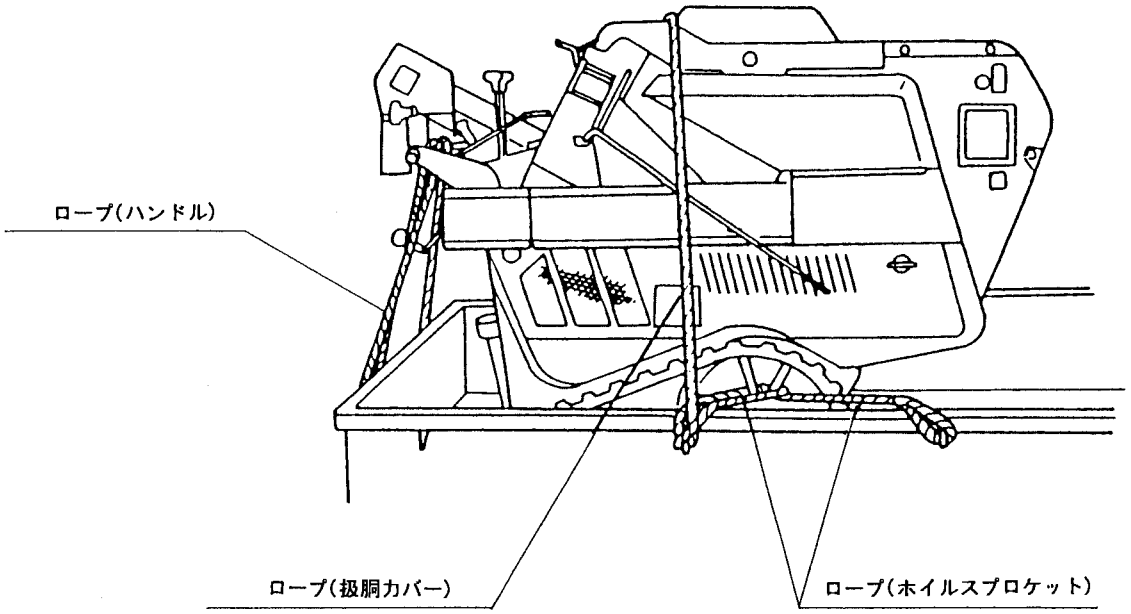
(1) 走行クラッチレバーは「切」にしてチェンジレバーを確実に「後」または「低」に入れてください。

(2) クローラの前後に木片で歯止めを施します。

(3) ホイルスプロケットとハンドルにロープを掛けて確実にしばります。

重要

●ロープは図の位置以外には掛けないでください。機械の破損や故障の原因となります。



■ほ場への出入り

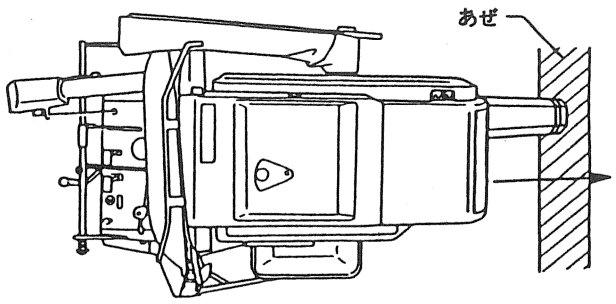
警告

(1) あぜを横断するときは、低速にしてあぜと直角にゆっくりと走行してください。

(2) 10cm以上の高いあぜのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。

(3) あぜ越え、ほ場の出入りの途中ではサイドクラッチ操作は絶対に行なわないでください。転倒する恐れがあります。

(4) チェンジレバーは「前進」「低」で、アクセルレバーは、極力「低」にして行ないます。

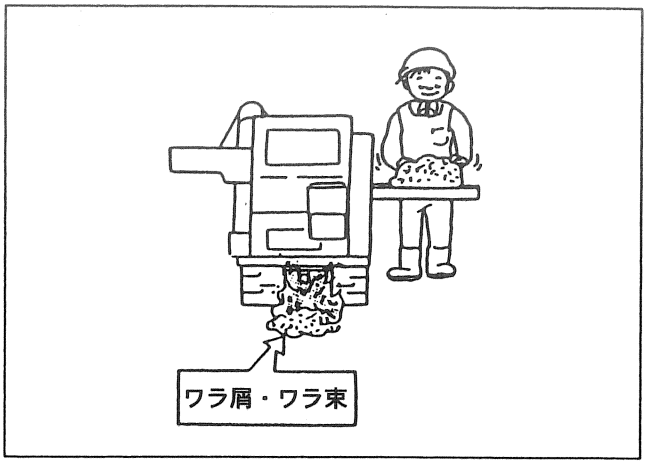


- あぜに対して直角に進入
- 10cm以上高いあぜはアユミ板を使用

■ほ場内の移動

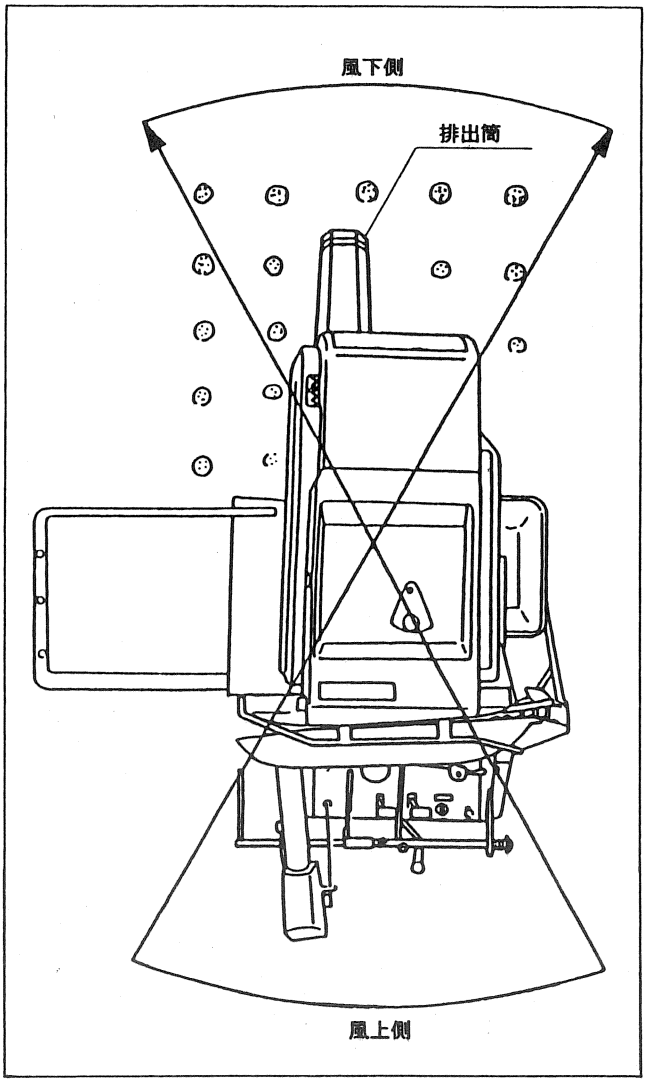
危険

本機の下部はマフラーの排熱で非常に高温となります。その為、ワラ屑・ワラ束上で連続作業を行なうと火災発生の恐れがあり大変危険ですので絶対に避けてください。特に前進移動で作業をする場合、本機の下部に排出筒からのワラ屑を溜めたまま進むことがありますので、移動後、確認をしてから作業をはじめてください。



(1) 風上を向いて作業をすると作業者や、補助者にほこりがかかります。
ほ場では排出筒が風下側を向くよう考慮しながら機体を移動します。

(2) 湿田では、なるべく刈株の跡をクローラが通るように走行すると、機体の沈下が少なくてすみます。



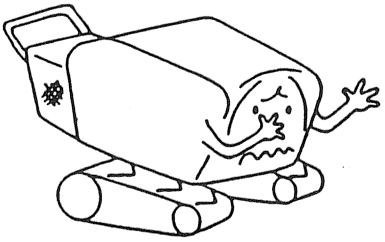
作業のしかた

快適作業のための作物とほ場

■作物の条件

朝ツユや降雨によって作物がしめっている場合、あるいは作物の水分が極端に多い場合には脱穀性能を十分に発揮出来ないばかりでなく、詰まりや破損の原因ともなります。

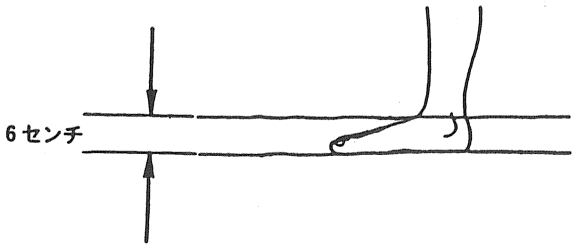
作物は十分に乾燥させてから作業してください。





■ほ場の条件

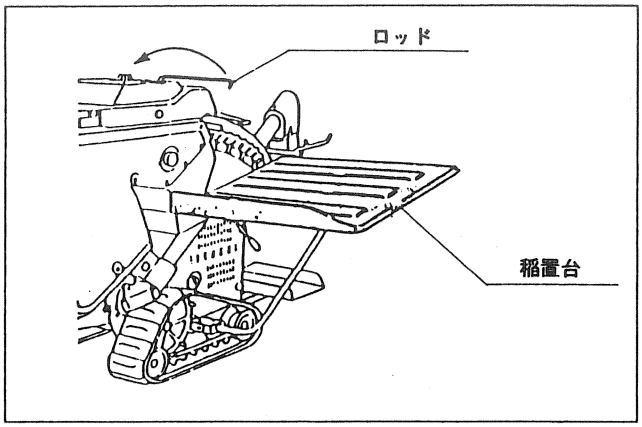
人の足で沈み量が6センチ以下の湿田であれば作業出来ます。



格納部品の取付けかた

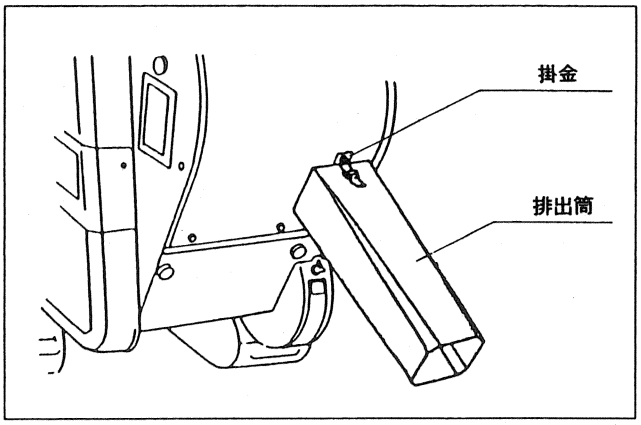
■稲　置　台

ロッドを外して稲置台をセットします。



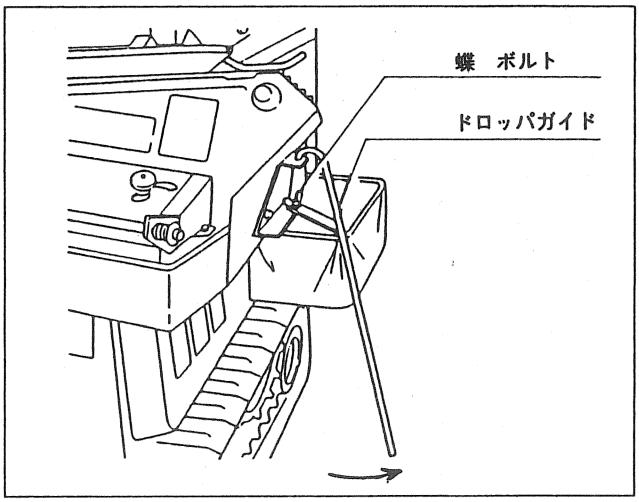
■排　出　筒

排出筒は吸引ボックス先端の掛金に取付けます。



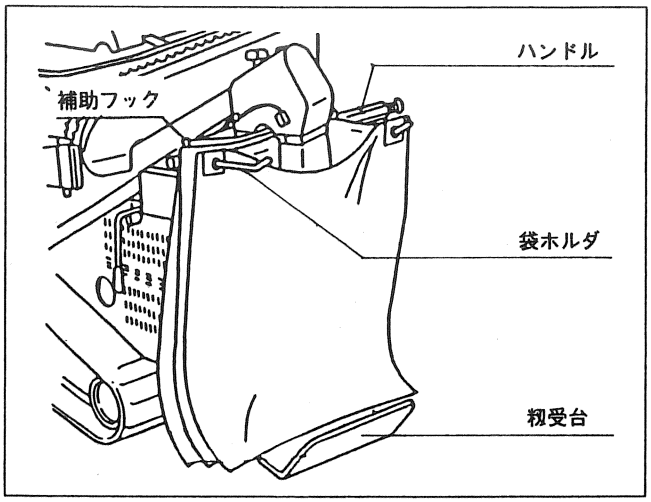
■排ワラ装置

蝶ボルトゆるめて回動し外向きにドロッパガイドをセットします。



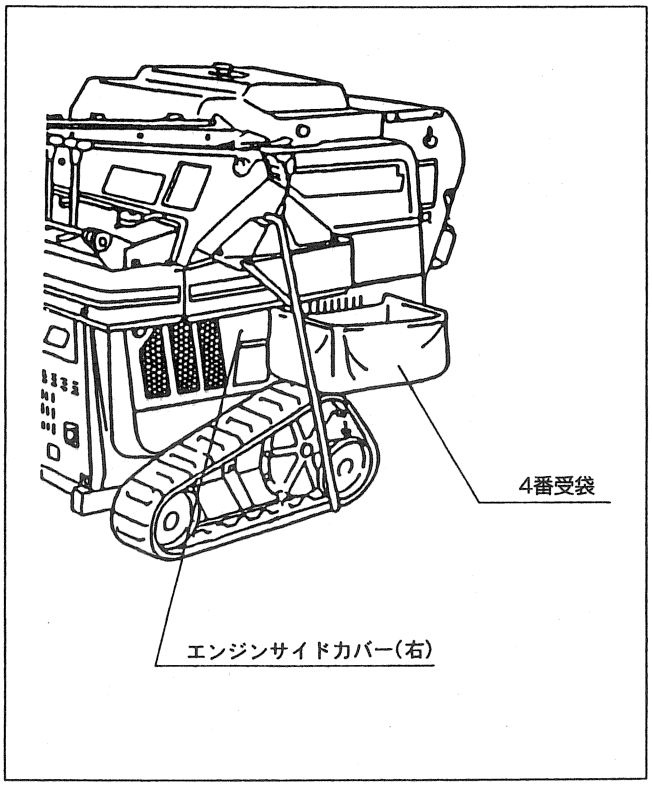
■籾処理装置

籾受台を倒し、ハンドルを回動して籾袋を補助フックに１枚、袋ホルダに10枚程度取付けます。



■4 番 受 袋

４番受袋をエンジンサイドカバー（右）に取付けます。



重要

- **格納時は、逆の手順で行ってください。**

作業に適した調節のしかた

警告

回転部付近の調節は、必ずエンジンを停止し、エンジンやあらゆる部分の作動が停止したことを確認してから行なってください。

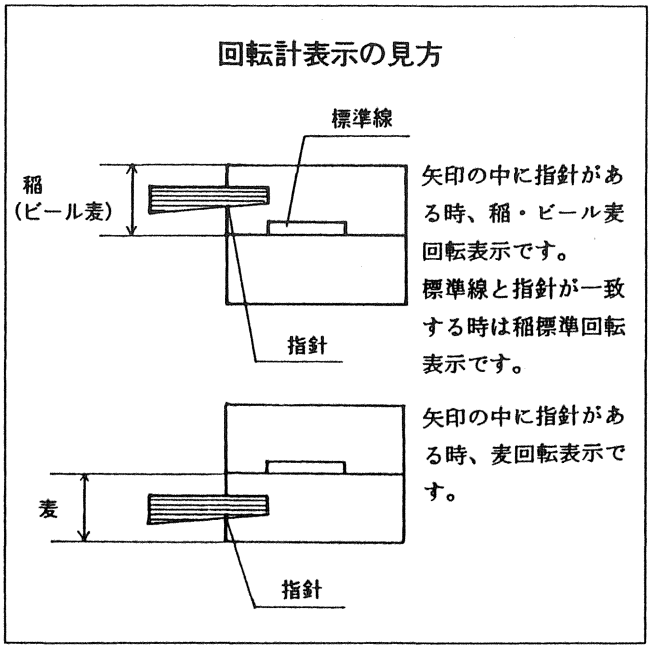
停止しないで調節すると衣服を巻き込まれたり、手をはさまれたりして大変危険です。

■回転計の調節

作物の種類に応じて右図の範囲で使用してください。更に作業の状況に応じて次の要領で回転数を調節します。

こぎ残りが発生する
選別が悪い　⇨高くする

損傷米が発生する
籾の飛散が多い　⇨低くする



重要

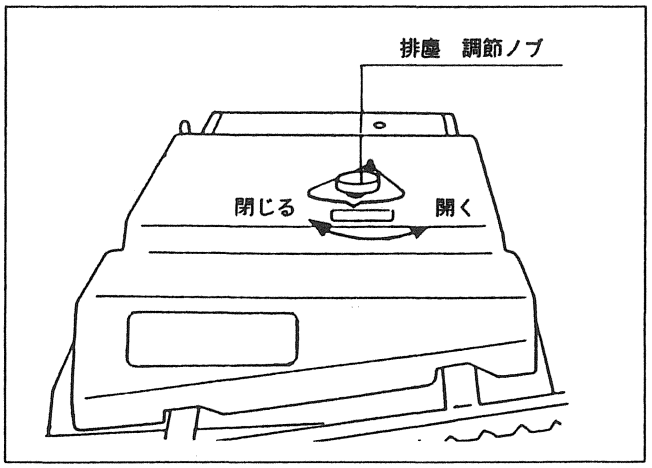
- **回転数の調節は作業状態で行なってください。規定回転がでていないと、こぎ残りが発生したり、能率低下にて脱穀部に詰まったりします。また回転が高すぎると損傷米が発生したり、籾の飛散が多くなります。作業具合に応じて、アクセルレバーで回転数を調節してください。**

■排塵量の調節

作物条件、作業状況に応じて、ワラ屑の排出速度を調節します。排塵調節ノブをゆるめ「開く」または「閉じる」方向へ移動させた後、排塵調節ノブを締付けます。

こぎ室でゴトゴト音がする
エンジン回転がダウンする
能率を上げて作業したい　⇨開く

籾の飛散が多い
枝梗付の籾が発生する　⇨閉じる

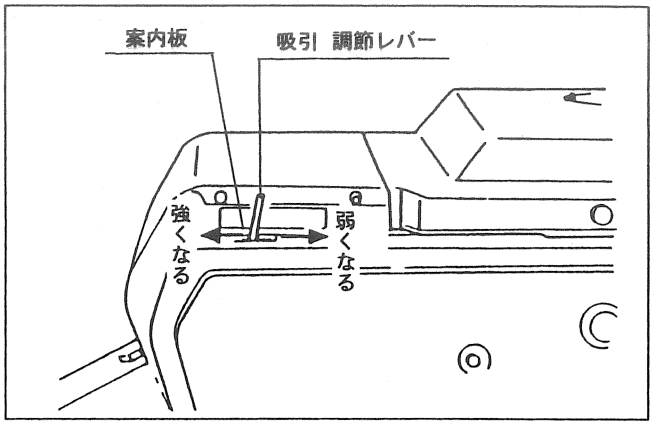


■吸引風量の調節

作物条件、作業状況に応じて、吸引ファンの風力を調節します。脱穀機の運転中に吸引調節レバーを手前に引き、吸引調節レバーを「強くなる」または「弱くなる」方向へ移動させた後、レバーを案内板の切込みに入れます。

吸引内部にワラ屑が詰まる
選別が悪い
⇨強くする

籾の飛散が多い
損傷米が発生する
⇨弱くする



重要

●レバーは必ず運転中に動かしてください。

■選別仕切板の調節

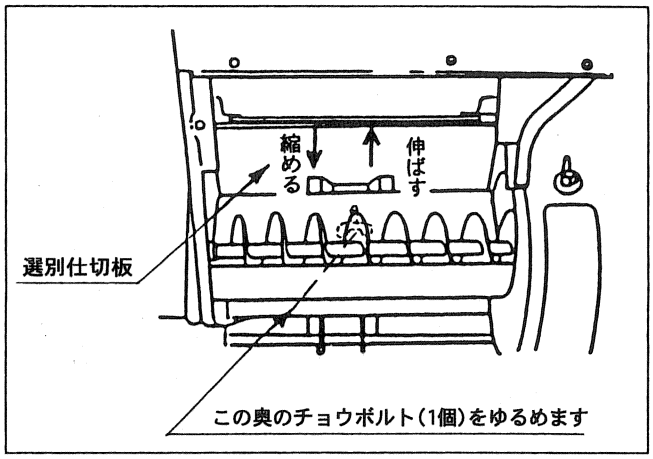
警告

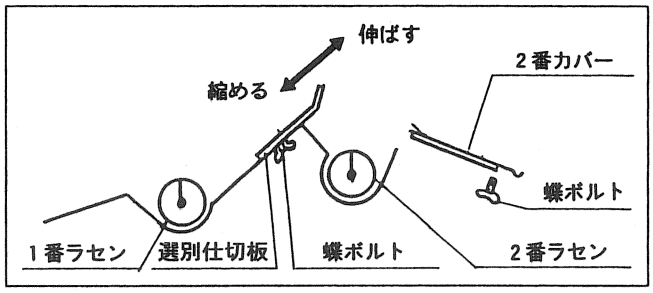
調節する時は、必ずエンジンを停止してください。停止しないで調節すると服を巻き込まれたり、手をはさまれたりして大変危険です。

作物条件、作業状況に応じて、１番選別棚の仕切板長さを調節します。蝶ボルト（２個）をゆるめ、２番カバーを取外します。選別仕切板の蝶ボルト（１個）をゆるめ、選別仕切板を「伸ばす」または「縮める」方向へ移動させた後、蝶ボルトを締付けます。２番カバーを取付けます。

２番スロワーに詰まる
損傷米が発生する
⇨伸ばす

麦のボサ、稈切れが混入する
枝梗付の籾が多く混入する
⇨縮める



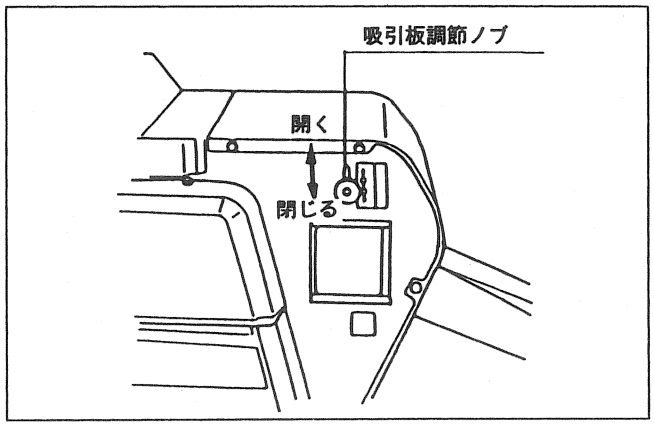


■吸引板の調節

作物条件、作業状況に応じて、次の様に調節します。吸引板調節ノブをゆるめ、「開く」または「閉じる」方向へ移動させた後、吸引板調節ノブを締付けます。

ワラ屑の発生が多くて
吸引ボックスに詰まる
⇨開く

籾の飛散が多い
⇨閉じる



脱穀作業のしかた

警告

(1) ハーベスタ作業をする時は、周囲の安全に十分注意をはらい、特に子供は近づけないでください。

(2) 後進する時は、後方の安全確認をし、低速で後進してください。

(3) エンジン回転中は、回転部に手や身体を絶対に近づけないでください。

(4) 異常が発生したときは、直ちにエンジンを止めて、エンジンや作動部が停止したことを確認してから点検してください。

(5) ワラ屑を取り除くときは、必ずエンジンを止めて、エンジンや作動部が停止したことを確認してから取除いてください。

(6) 二人以上の共同作業では、合図をし、補助者の安全を確認しながら、運転してください。

(7) 回転部に巻き込まれないよう、作業に適した服を着用し作業してください。(1ページ参照)

(8) 安全カバーを取り外しての作業は絶対にしないでください。

(9) 手や体は、必ず脱穀チェンより外側（機体から離れる側）の位置にして脱穀チェンに触れないようにしてください。

危険

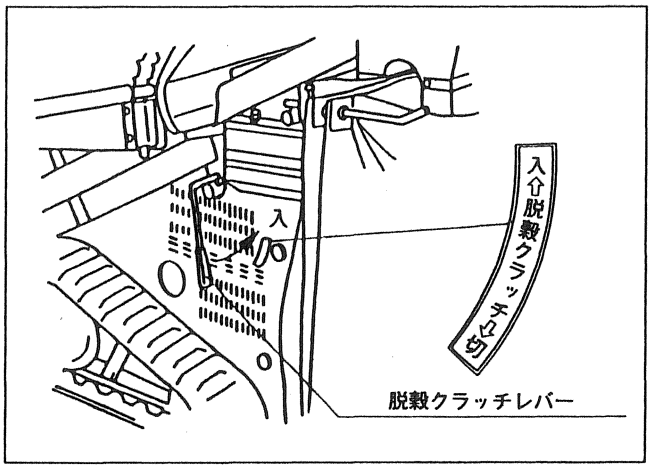
●本機の下部はマフラーの排熱で非常に高温となります。

ワラ屑・ワラ束上での作業は、火災発生の原因となりますので絶対に避けてください。

■脱穀部の運転

(1) エンジンを暖機運転したのち、アクセルレバーをやや「高速」にします。

(2) 脱穀クラッチレバーを「入」にします。



注意

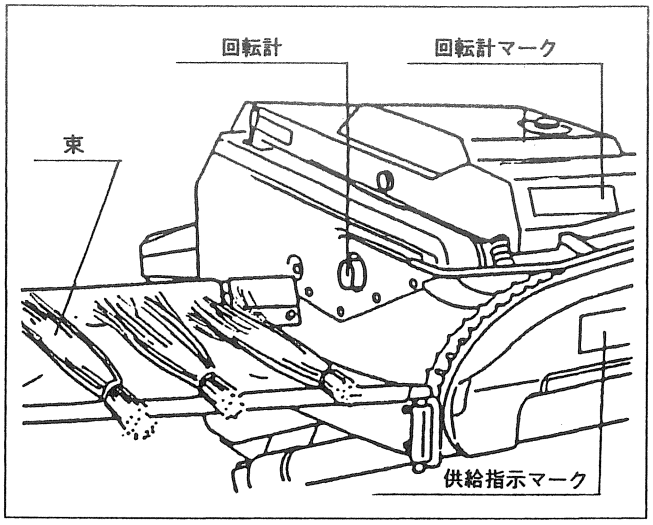
脱穀クラッチレバーを「入」にする前には必ず声で合図してください。

(3) 回転計を見ながら、所定の位置に指針がくるようアクセルレバーを調整します。

■稲束の供給

(1) 作物の穂の先端が稲置台の壁に触れない程度のこぎ深さで、１束ずつ穂先側を広げて供給します。

(2) 束の大きさはバインダ結束の「中」束以下とし、供給指示マークに従って供給してください。



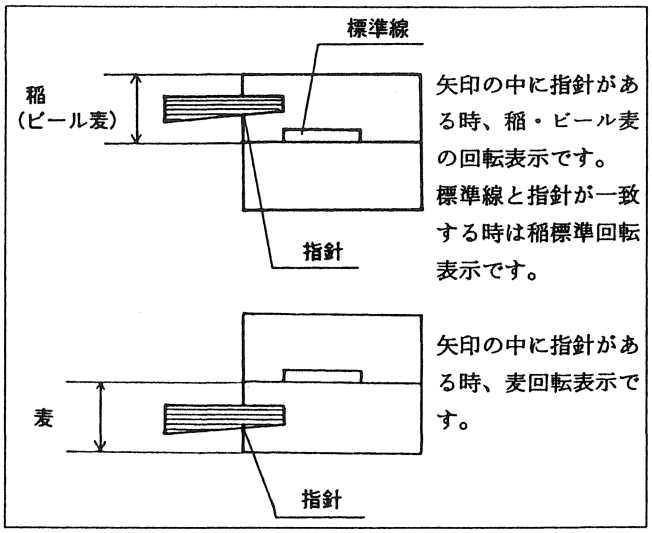
重要

- **束の供給は常に正しく行なってください。無理な供給をするとワラ屑が多く発生し、馬力損失や籾飛散の原因となります。**

■回転計の調節

稲束を供給しながら、この状態で回転計マークに記載されている所定の回転数が保たれるようアクセルレバーで再度調節します。

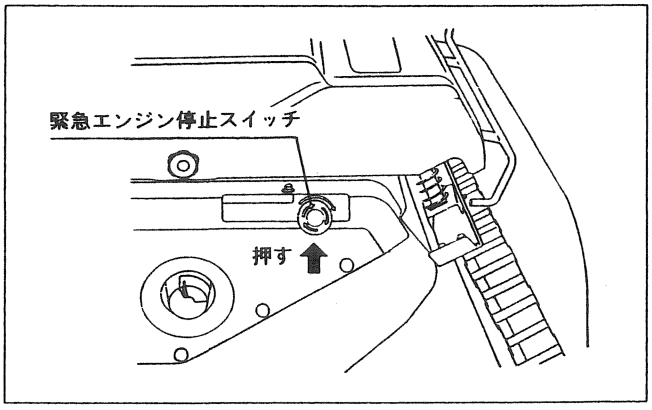
回転計表示の見方



■脱穀部の緊急停止

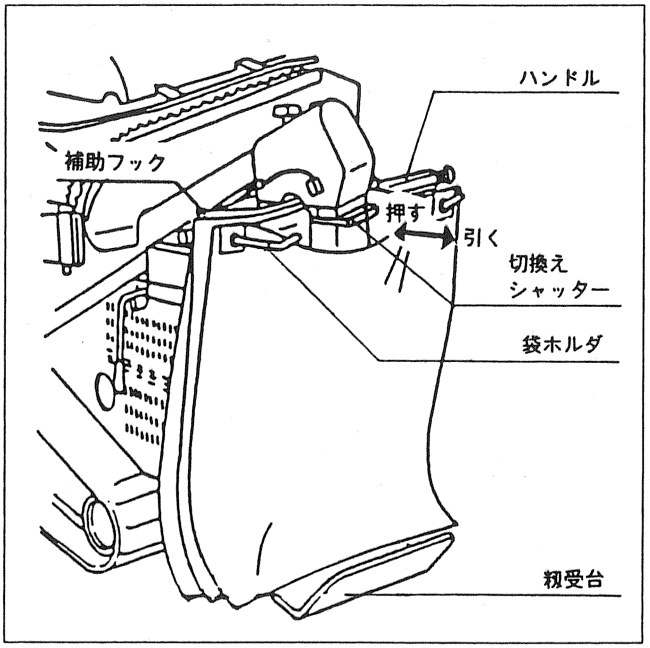
脱穀作業中に何らかのトラブルが発生し、脱穀部を止める必要がある場合は緊急エンジン停止スイッチを押してください。エンジンが停止し、脱穀部が止まります。

再始動する時は、スイッチを右に回し、解除してから行なってください。



■籾袋の交換

籾袋が満杯になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったら直ちに切換えシャッターを押してください。籾は補助フック側の予備籾袋に流れます。次の籾袋に交換してください。切換えシャッターを引きますと、籾は次の籾袋に流れます。警告ブザーが鳴りやみます。



重要

- **籾袋が満量の状態で作業しますと、脱穀機の内部に籾が詰まります。機体破損の原因となります。**
- **切換えシャッターを押したまま作業を行なった状態では警告ブザーが鳴り続けます。籾袋交換後は必ず切換えシャッターを引いてください。**

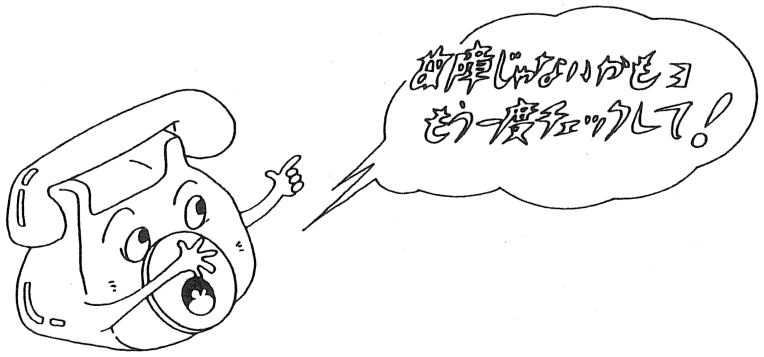
不調時の対応のしかた

こんな時には	ここを点検して	こうしてください
(1) エンジンがかからない	始動手順は間違っていませんか？	正しい手順で始動してください。 →20ページ
	燃料がなくなっていませんか？	燃料を補給してください。 →18ページ
	点火プラグが悪くなっていませんか？	点火プラグを掃除し、スキマを調整してください。 →49ページ
	走行クラッチレバー又は、脱穀クラッチレバーが「入」の位置になっていませんか。	走行クラッチレバー及び脱穀クラッチレバーを「切」の位置にしてください。 →20ページ
	緊急エンジン停止スイッチが押されていませんか。	緊急エンジン停止スイッチを右に回し解除してください。 →15ページ
(2) エンジンの力がない	こぎ室でゴトゴト音がしませんか？	次ページのゴトゴト音の項を読んでください。 →35ページ
	2番スロワー内や吸引ボックス内に詰まっていませんか？	エンジンを止めて掃除をしてください。 →43ページ
	エアクリーナのエレメントが目詰まりしていませんか？	エレメントを掃除してください。 →40ページ
(3) 選別が悪い	吸引ボックス内に詰まっていませんか?	エンジンを止めて掃除をしてください。 →43ページ
	吸引の風量調節が「弱」すぎていませんか？	吸引風量調節を「強」側へ動かしてください。 →30ページ
	回転計の設定が「低」すぎていませんか？	アクセルレバーで回転を上げてください。 →16・29ページ

こんな時には	ここを点検して	こうしてください
(4) 籾の飛散が多い	回転計の設定が「高」すぎていませんか？	アクセルレバーで回転を下げてください。 →16・29ページ
	排塵量調節が「開」すぎていませんか?	排塵量調節を「閉」側へ動かしてください。 →29ページ
	吸引の風量調節が「強」すぎていませんか？	吸引の風量調節を「弱」側へ動かしてください。 →30ページ
(5) こぎ残りが多い	脱穀回転が「低」すぎていませんか？	アクセルレバーで回転を上げてください。 →29ページ
	受網とこぎ歯のスキマが広すぎませんか？	受網のセットボルトをゆるめて、こぎ歯に近づけてください →48ページ
	こぎ深さが浅すぎませんか？	適正なこぎ深さで作業してください。 →32ページ
(6) こぎ室内でゴトゴト音がする	作物はしめっていませんか？	十分乾燥させてから作業を行なってください。 →27ページ
	稲束の供給が多すぎませんか？	一束ずつ穂先を広げて、ていねいに供給してください。 →32ページ
	こぎ深さが深すぎませんか？	こぎ残りが出ない程度に浅こぎしてください。 →32ページ
	排塵量調節が「閉」すぎていませんか?	排塵量調節を「開」側へ動かしてください。 →29ページ

重要

- **ここに記載されている内容以外の不具合が発生した場合は、むやみに分解しないでただちに販売店・農協へ連絡してください。**



点検整備

●正常な機能を発揮するよう、安全に作業できるように、下の表を参考に、点検整備してください。
●なお下表の点検、整備間隔や時間については目安であり記載時期以外でも必要に応じ実施してください。

点検整備一覧表

○点検、調整、補充　△清掃、洗浄　●交換

区分		点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					参照ページ
				シーズン前	毎日始業時	50時間ごと	100時間ごと	格納時	
エンジン	1	エンジンオイルの油量	点検、補充、交換	○	○	● 初回のみ20時間			18、37
	2	エアクリーナおよびエアクリーナエレメント	点検、洗浄	○		エレメント△			40、42
	3	点火プラグの汚損・間隙	点検、清掃	○△			●		49
	4	燃料コック	点検、清掃					○△	41、50
	5	燃料ホースの劣化ともれ	点検、交換	○			● 2年ごと		—
	6	燃料タンク、気化器の燃料	抜取					○	50
	7	マフラー部、リコイル部、カバー金網部	清掃	△	△			△	—
電装部	8	配線接続部の外れ、損傷	点検	○					—
	9	緊急エンジン停止スイッチ	点検		○				19
走行部	10	クローラの伸び	点検、調整	○	○			○	47
	11	走行ミッションオイルの油量	点検、補充、交換	○		● 初回のみ	●	○	38
	12	サイドクラッチロッド(右・左)	点検、調整		○			○	44
	13	走行駆動ベルト	点検、調整		○			○	45、54
	14	駐車ブレーキワイヤ	点検、調整		○			○	44
脱穀部	15	吸引ファンベルト	点検、調整	○				○	46、54
	16	脱穀メインベルト	点検、調整	○				○	46、54
	17	脱穀駆動ベルト	点検、調整	○				○	45、54
	18	脱穀チェン	点検、注油、調整		○		○	○	46
	19	ワラ切り刃	点検	○				○	48
	20	こぎ歯	点検、増締め	○				○	—
	21	脱穀ギヤーボックスオイルの油量	点検、補充	○			●	○	38
	22	揚穀筒、揚穀ギヤーボックス	点検、清掃	○△				△	43
	23	ラセン底板	点検、清掃	○△				△	43

⚠ 警告

(1) 各部の点検と調整をするときは、必ずエンジンを止めてエンジンおよび作動部、回転部が停止したことを確認してから行なってください。また、不明な点や、異常を感じた場合はすみやかにお買い上げ先に相談してください。

(2) エンジン周辺の作業をする時は、エンジンが冷えてから行なってください。

(3) 点検整備をするときは、広くて平らな硬い場所で行なってください。

(4) 室内でエンジンをかける場合は、窓を開けて換気を十分にして行なってください。

(5) 点検整備で取り外した安全カバー類は、必ず元のとおりに取付けてください。エンジン始動するときも、安全カバー類が取付けてあるか確認してから行なってください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部分に異常があるときは、お買上げの農協や販売店の修理工場に依頼してください。

(1) エンジン本体　(2) トランスミッションケース　(3) 脱穀ギヤーボックス

(4) 揚穀ギヤーボックス　(5) クローラ　(6) 電気部品　(7) 脱穀機内部

■使用済の資材の処分について

機械の廃油やプラスチック類などの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。

廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、販売店・農協に相談するか、または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

使用済の資材の処分については、その時の法令に従って処理してください。

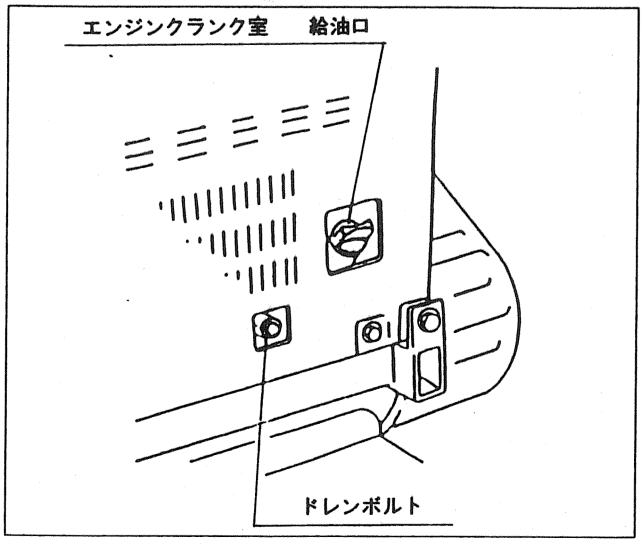
オイル類の点検整備

■エンジンオイルの交換

(1) ドレンボルトを外して汚れたオイルを容器に抜き取ります。

(2) 再びドレンボルトを取付けて、給油口からエンジンオイルを注入します。

推奨オイル	交換時間	油　量
ガソリンエンジンオイル 10W-30 (SF級以上)	第1回目は 20時間後 第2回目以降は50時間毎	0.6L



重要

●エンジンオイルは、ガソリンエンジンオイル10W-30(SF級以上)を必ず使用してください。

■走行ミッションオイルの交換

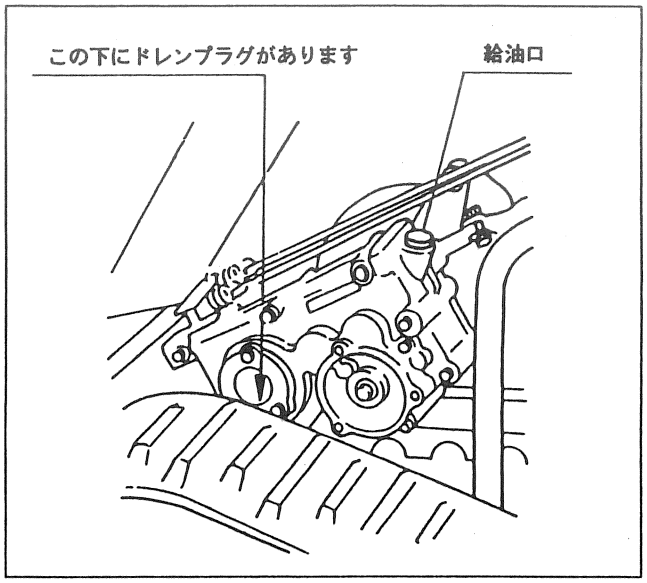
(1) エンジンサイドカバー(左)をはずします。

(2) ドレンプラグをはずして汚れたオイルを容器に抜き取ります。

(3) 再びドレンプラグを取付けて、給油口からギヤーオイルを注入します。

推奨オイル	交換時間	油　量
ギヤオイル SAE90 GL-5 以上	第1回目は 50時間後 第2回以降 は100時間毎	1.8L

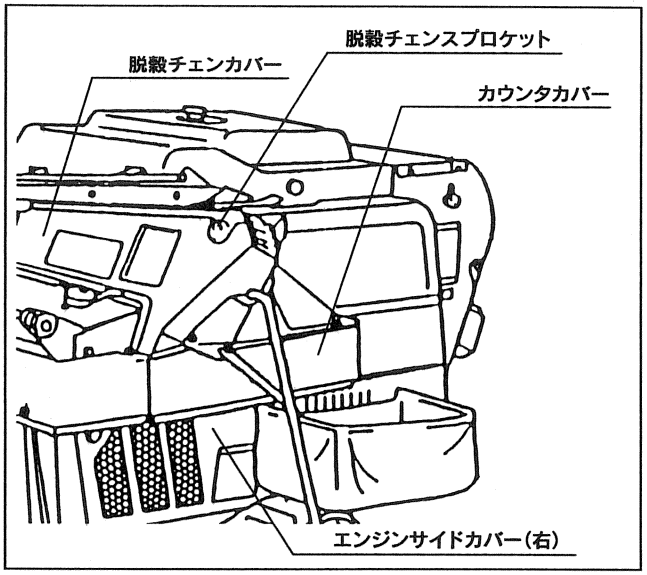
(4) エンジンサイドカバー(左)を取り付けます。



■脱穀ギヤーオイルの交換

(1) エンジンサイドカバー(右)、脱穀チェンカバー カウンタカバーを取りはずします。

(2) 脱穀チェンスプロケットを取りはずします。

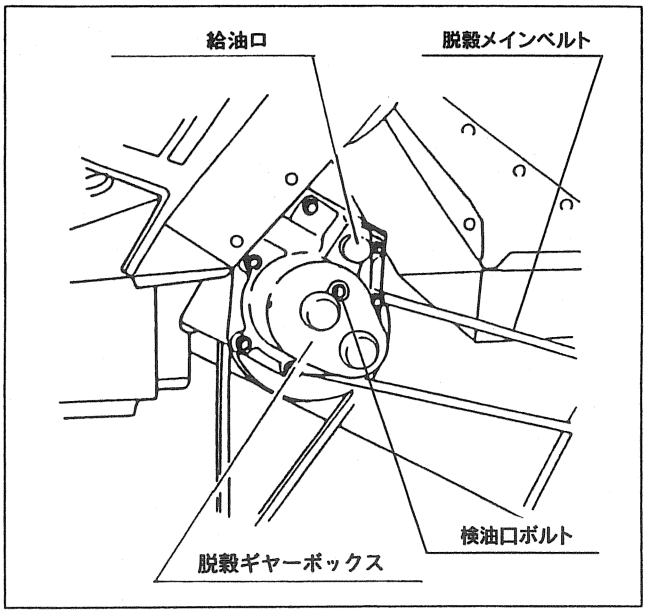


(3) 脱穀メインベルトテンションをゆるめます。

(4) ギヤーボックスを本体から取外し、給油口から汚れたオイルを容器に抜き取ります。

(5) 脱穀ギヤーボックスを本体に取付けて、ギヤーオイルを給油口から0.35L 注入します。

推奨オイル	交換時間	油　量
シェル GCオイル100SE	100時間毎	0.35L



(6) 脱穀メインベルトテンションを張ります。
(46ページ参照)

(7) 取りはずした脱穀チェンスプロケット、カバーを元通りに取り付けます。

■点検、整備作業をしやすくするために

点検、整備作業をしやすくするために、下図の様に脱穀部を前方に倒すことができます。

(1) エンジンサイドカバー（右）を外して脱穀駆動ベルトをエンジンプーリから外します。

(2) 左・右の脱穀セットボルトを外します。

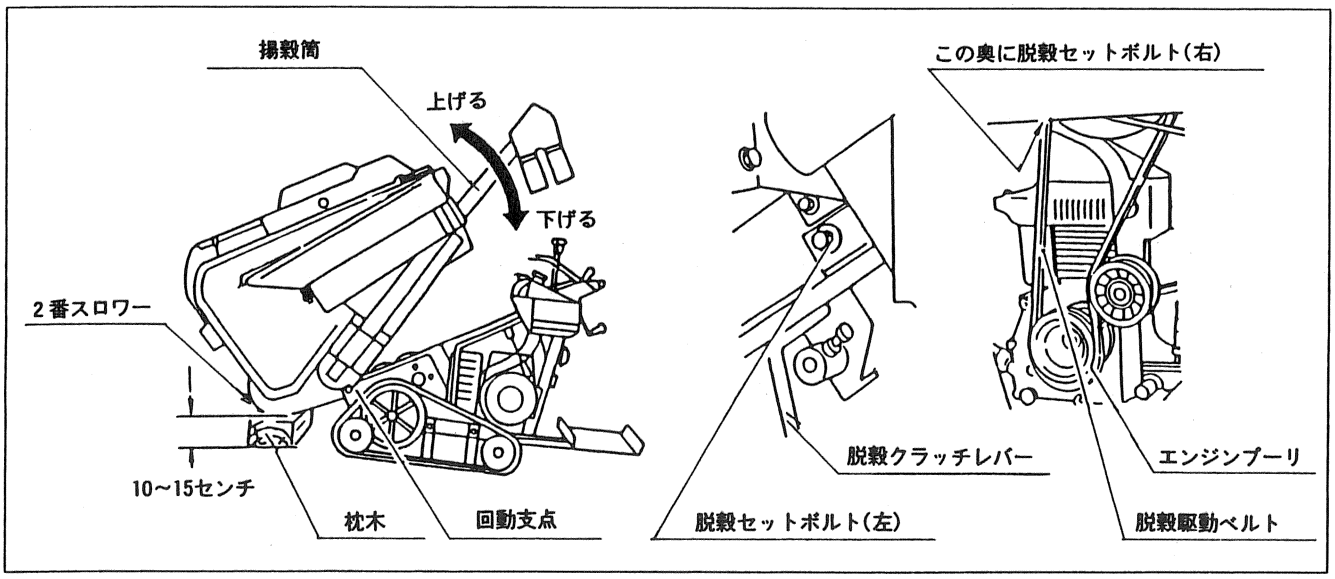
(3) 籾センサーハーネスのカプラおよびスタータロープを外します。

(4) 脱穀部前方に枕木を置いて揚穀筒を持ち上げます。枕木と２番スロワー部が接触したら持ち上げをやめてください。

(5) 再び脱穀部をセットする際には、上記と全く逆の手順で行なってください。

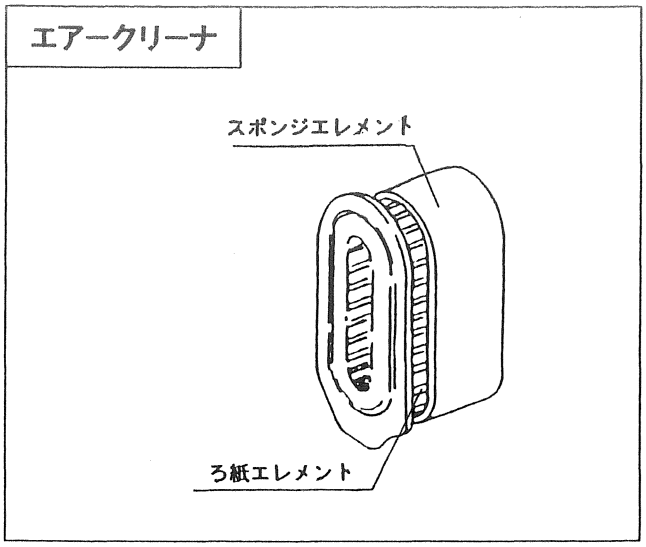
⚠ 注意

脱穀部を前方に倒したときに、もどりがないか確認してください。



防塵装置の点検整備

■エアークリーナの掃除



(1) エンジンサイドカバー（左）をはずします。

(2) エアークリーナのフタをはずしてエレメントを取出します。

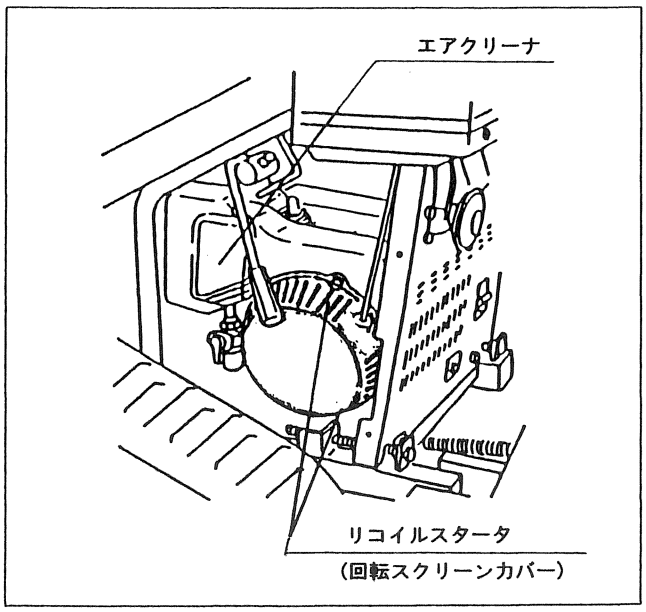
(3) ろ紙エレメントは、石けん液で洗浄後、十分に水洗いし、よく乾燥させてから使用してください。

(4) スポンジエレメントは、ホコリをたたいておとすか、石けん液で洗浄後、十分に水洗いし、よく乾燥させてからエンジンオイルに浸して、固く絞ってから使用してください。

(5) エンジンサイドカバー（左）を取り付けます。

重要

- **ホコリの多い場所では早めに清掃してください。**
- **エレメントは十分乾燥させてから取りつけてください。**
- **清掃時、エレメントを石やコンクリートでたたかないようにしてください。**
- **エアクリーナ各部の締付けは、確実に行なってください。**
- **エレメントに穴があいた時は新品と取換えてください。穴があいたままで使用すると、エンジンの寿命を短かくします。**



■リコイルスタータの掃除

(1) エンジンサイドカバー（左）をはずします。

(2) 回転スクリーンのカバー上に付着したワラ屑を取除いてください。

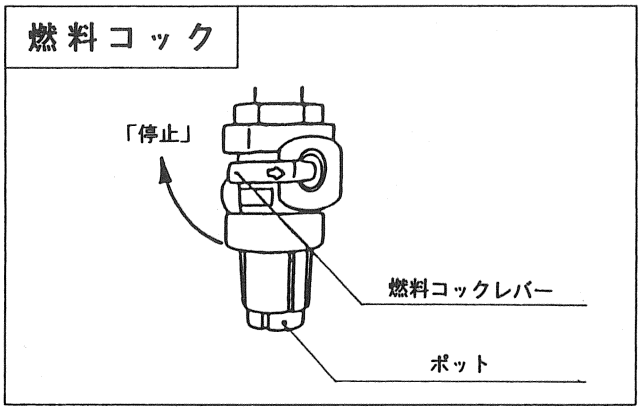
(3) エンジンサイドカバー（左）を取り付けます。

■燃料コックの掃除

危険

(1) こぼれた燃料は、きれいに拭きとってください。

(2) 点検整備するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。



(1) エンジンサイドカバー(左)をはずします。

(2) 燃料コックのレバーを真横に向けて「停止」にします。

(3) フィルター下部のポットをはずして、中に沈殿したゴミを取り除きます。

(4) 燃料もれがないようにポットは元通り締めてください。

(5) 燃料系のゴムホースは使わなくとも劣化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごと、または傷んだときにはお買い上げ先で新品と交換してください。

(6) エンジンサイドカバー(左)を取り付けます。

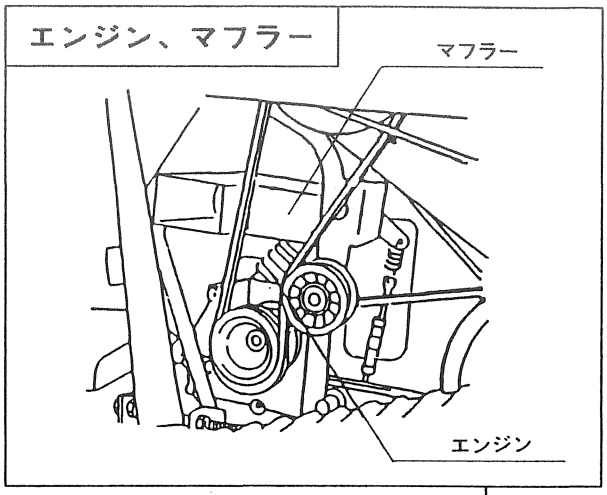
各部の掃除

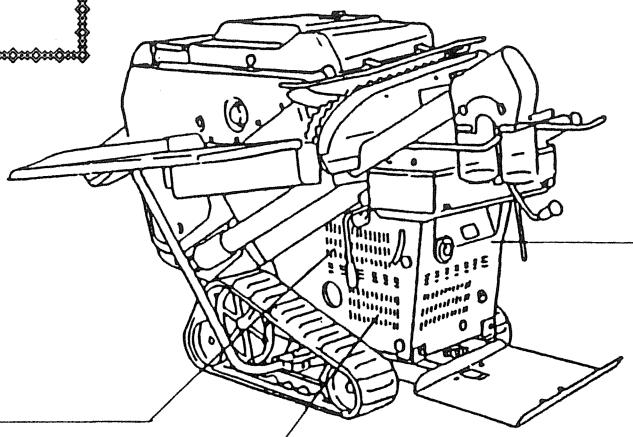
作業が終わったら、各部に付着したワラ屑やホコリをきれいに取り除いてください。

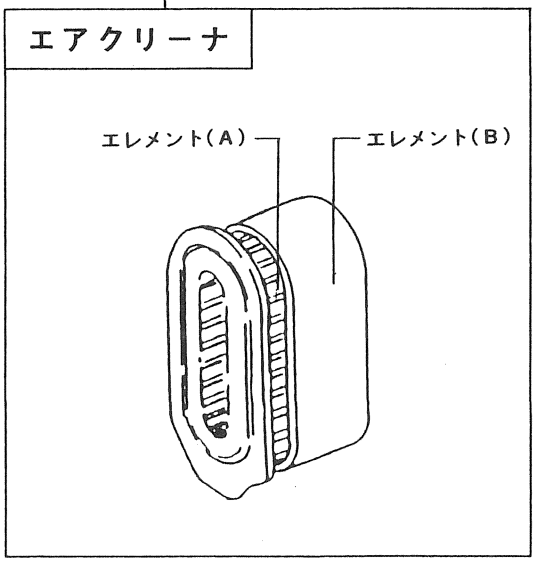
警告

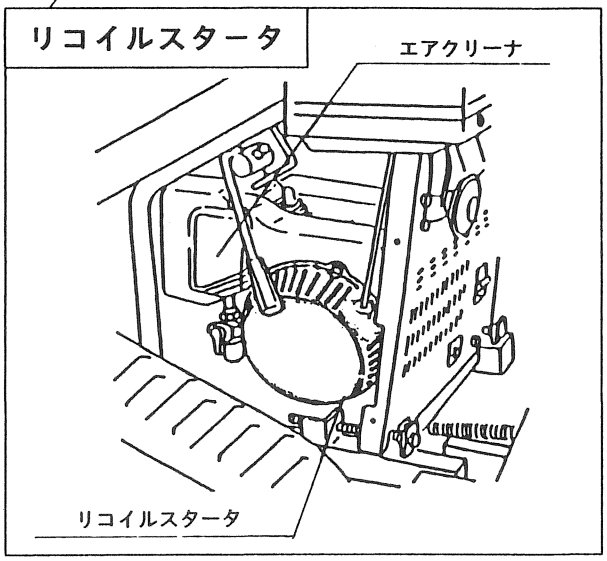
(1) 清掃をする時は、必ずエンジンを止め各部の回転が停止したことを確認してください。

(2) エンジン周辺、特にマフラー付近のワラ屑・ワラ束付着は火災の原因となり、大変危険ですので、頻繁に掃除を行なってください。



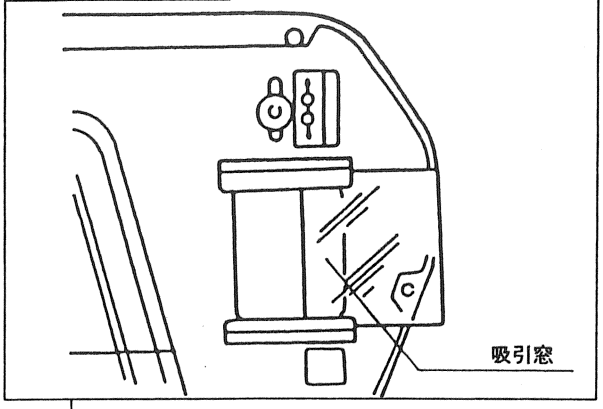




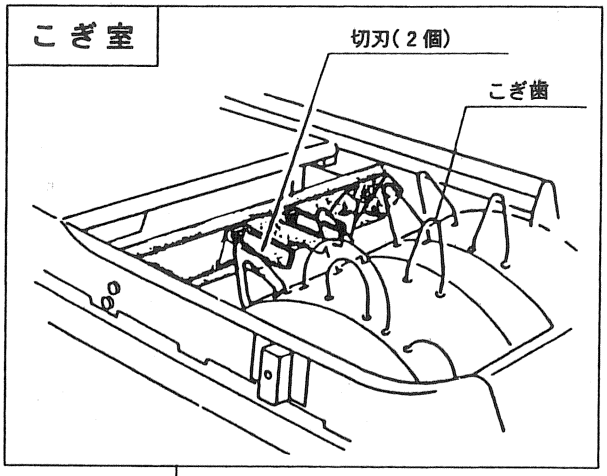


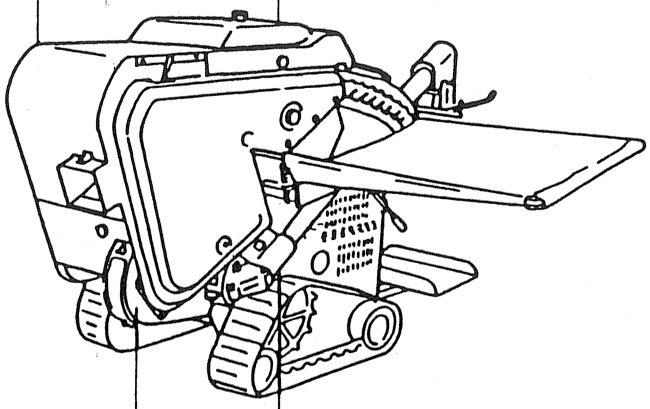
くわしくは40ページ「防塵装置の点検整備」を参照してください。

吸引ボックス



こぎ室

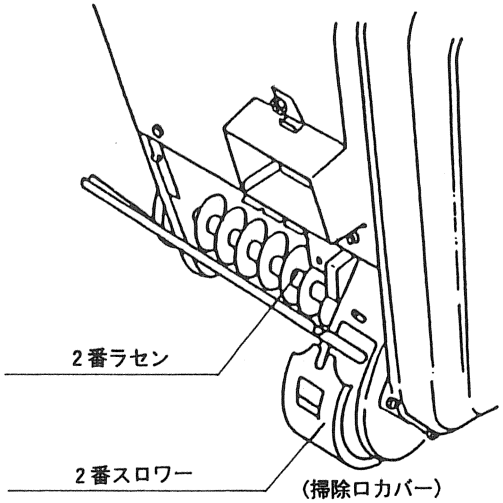




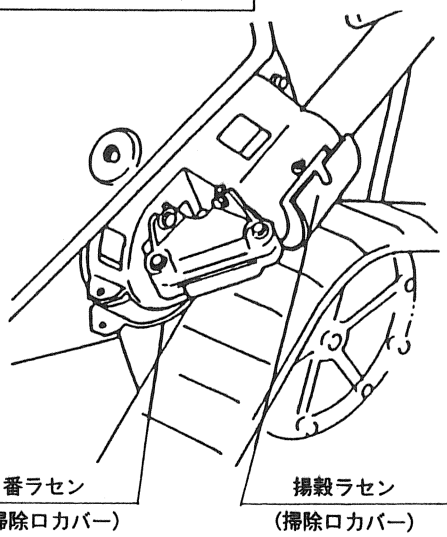
警告

- こぎ室の清掃時、切刃とこぎ歯で手を挟まないように注意してください。手袋を使用してください。

２番ラセン、２番スロワー



１番ラセン・揚穀ラセン



注意

・掃除が終わった後は、安全カバーと掃除口カバーを元通り取り付けてください。

ワイヤとロッドの点検整備

■駐車ブレーキの調整

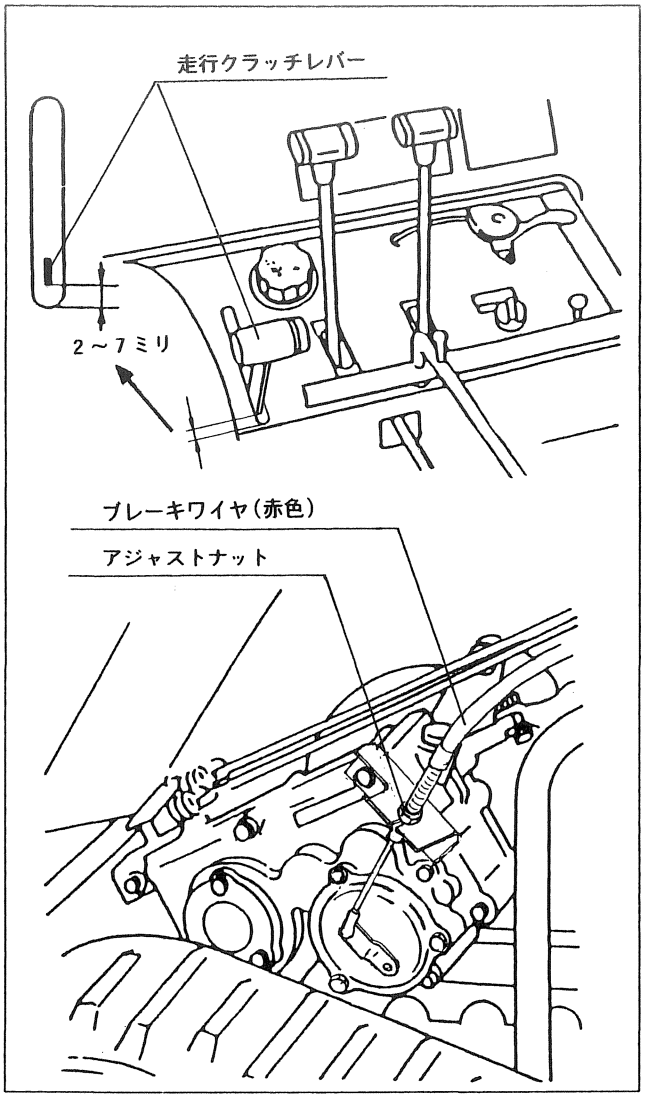
(1) エンジンサイドカバー(左)をはずします。

(2) 走行クラッチレバーと、長穴下端のスキマが２～７ミリとなるよう、アジャストナットで調整します。

(3) エンジンサイドカバー(左)を取り付けます。

警告

走行クラッチレバーを「切」にしたときレバーが長穴の端に当っていると駐車ブレーキがきかなくなり、大変危険です。

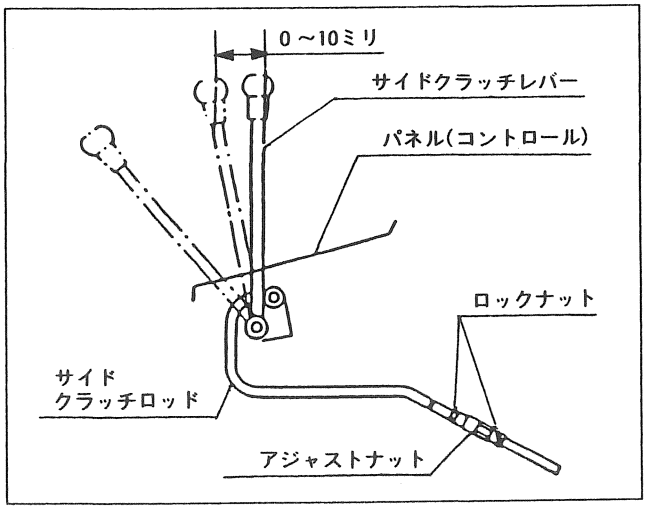


■サイドクラッチロッドの調整

(1) エンジンサイドカバー(左)をはずします。

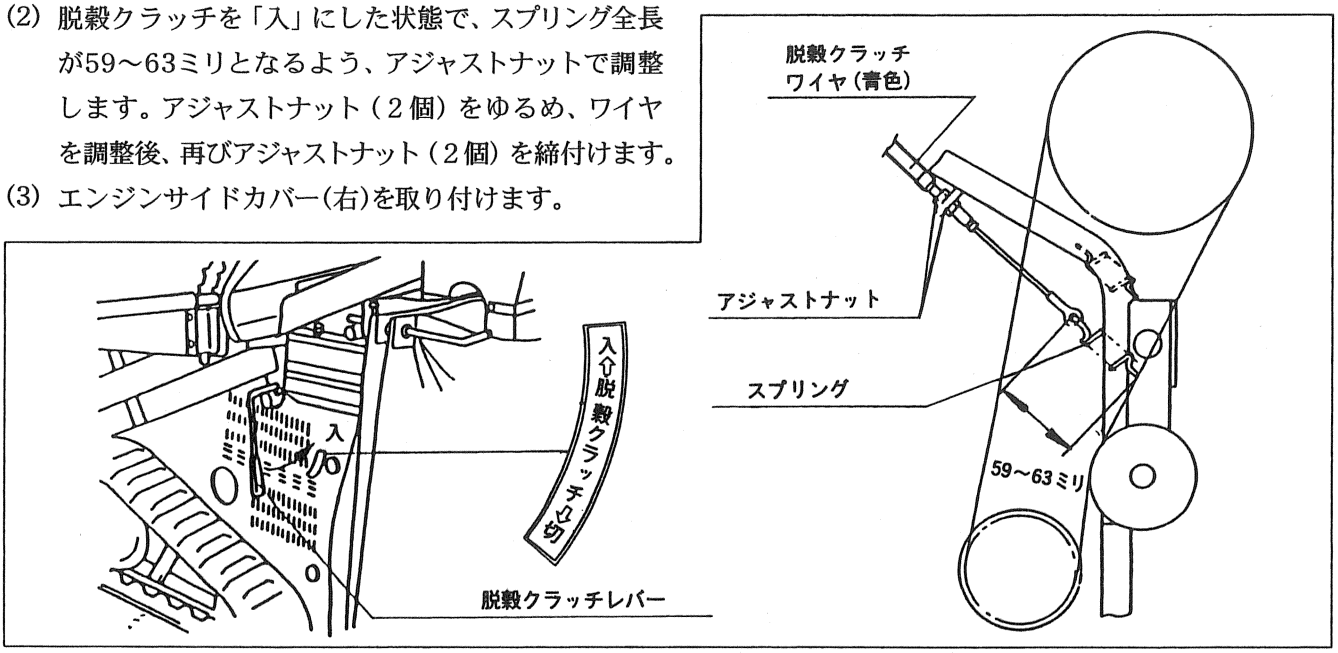
(2) サイドクラッチレバー先端での遊びが、0～10ミリとなるよう、アジャストナットで調整します。ロックナット(2個)をゆるめ、アジャストナットで調整後、再びロックナット(2個)を締付てください。

(3) エンジンサイドカバー(左)を取り付けます。



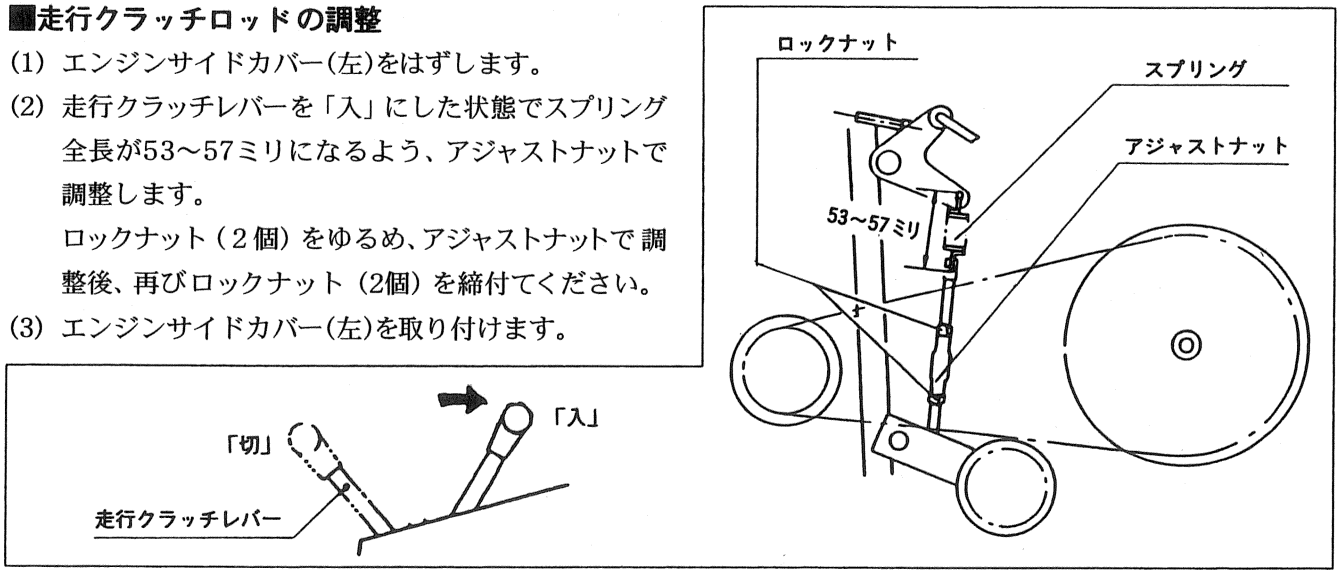
■脱穀クラッチワイヤの調整

(1) エンジンサイドカバー(右)をはずします。
(2) 脱穀クラッチを「入」にした状態で、スプリング全長が59～63ミリとなるよう、アジャストナットで調整します。アジャストナット（２個）をゆるめ、ワイヤを調整後、再びアジャストナット（２個）を締付けます。
(3) エンジンサイドカバー(右)を取り付けます。



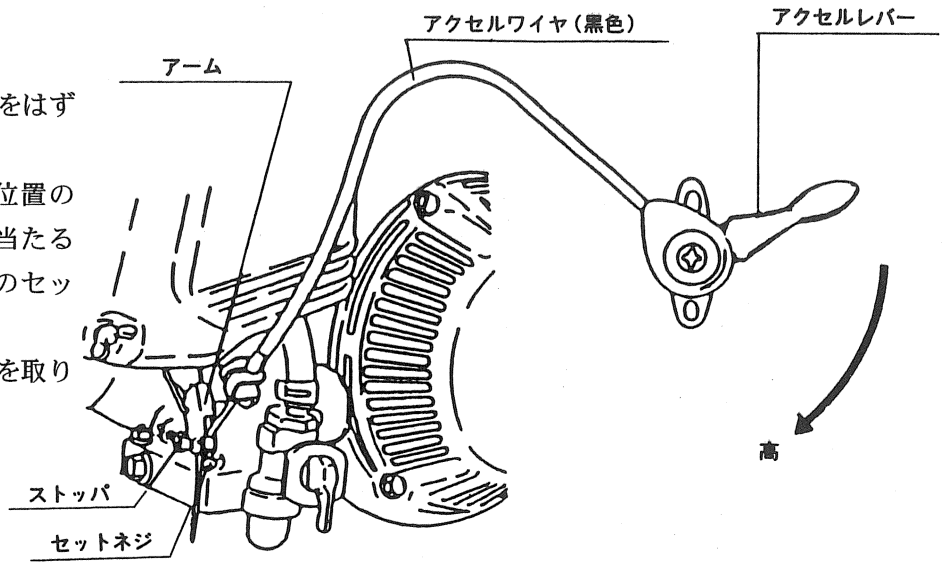
■走行クラッチロッドの調整

(1) エンジンサイドカバー(左)をはずします。
(2) 走行クラッチレバーを「入」にした状態でスプリング全長が53～57ミリになるよう、アジャストナットで調整します。
ロックナット（２個）をゆるめ、アジャストナットで調整後、再びロックナット（2個）を締付てください。
(3) エンジンサイドカバー(左)を取り付けます。



■アクセルワイヤの調整

(1) エンジンサイドカバー(左)をはずします。
(2) アクセルレバーが「高」の位置のとき、アームがストッパに当たるよう、セットネジでワイヤのセットを調整します。
(3) エンジンサイドカバー(左)を取り付けます。



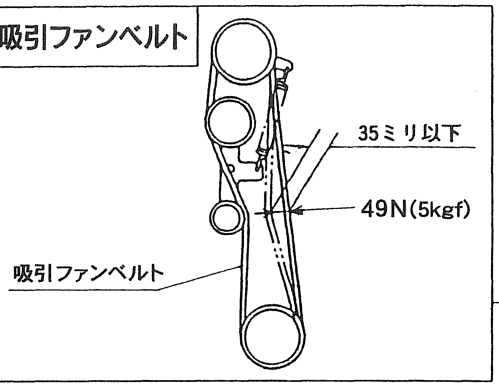
ベルト、チェン、クローラの点検整備

警告

各ベルトの点検・調整は、エンジンを停止し回転が確実に止まったことを確認した後、行なってください。作業時に取りはずしたカバーは、点検・調整後に取り付けてください。

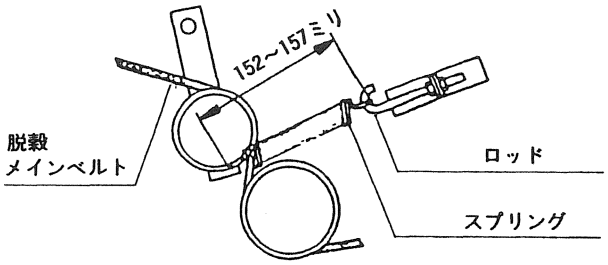
■各ベルトのテンション調整

吸引ファンベルト



ベルトのたわみ量が35ミリ以上になったらベルトを交換します。

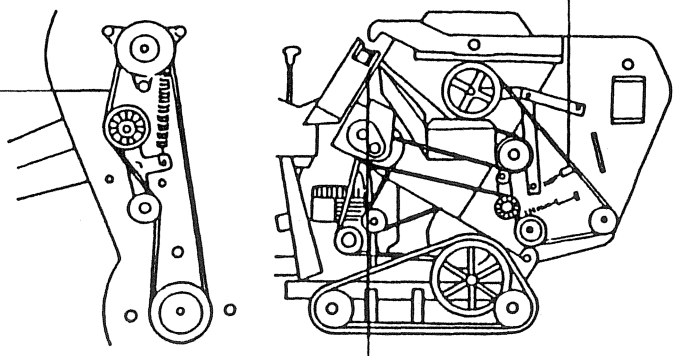
脱穀メインベルト



スプリング全長が152～157ミリとなるようロッドで調整します。

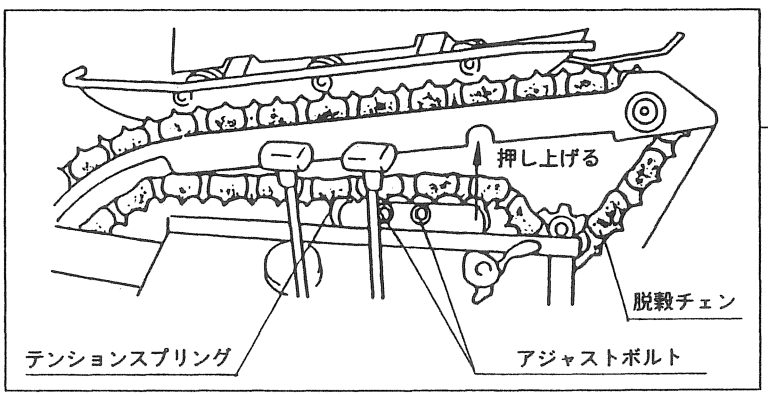
警告

脱穀チェンの点検・調整は、各部の回転が完全に停止したことを確認した後、行なってください。



■脱穀チェンの調整

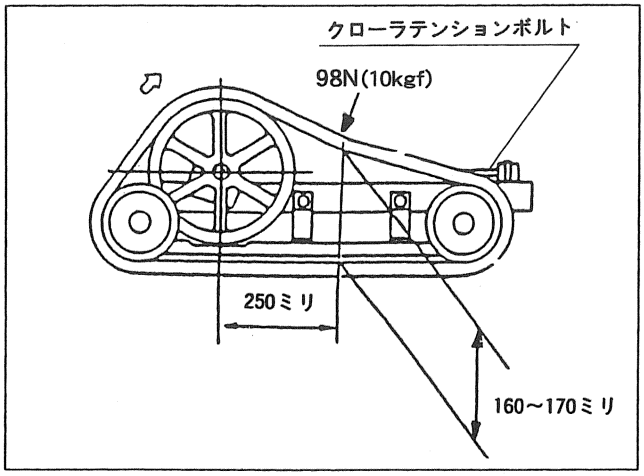
ワラ束を供給したとき、脱穀チェンがスリップするようになったら、チェンカバーを外して、アジャストボルト（２個）をゆるめ、テンションスプリングを押し上げてください。アジャストボルトを元通りに締付けてチェンカバーを取り付けてください。



■クローラの調整

(1) 機体を「後進」させてクローラの上側をゆるませてください。

(2) クローラの中央部を手で98N(10kgf)の荷重にて押し下げて、上と下のクローラ内面の隙間が160～170ミリになるようにテンションボルトで調整します。



重要

- **クローラの張り量が適正でないと、クローラの耐久性が損なわれたり、クローラはずれをおこしたりします。**
- **左右のクローラの張り強さは、必ず同じになるように調整してください。**

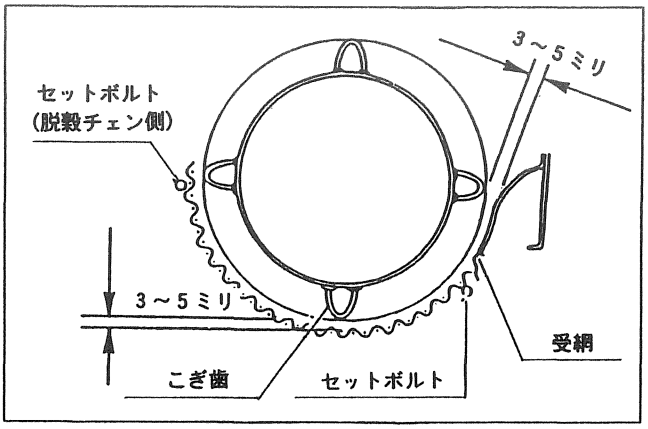
その他の点検整備

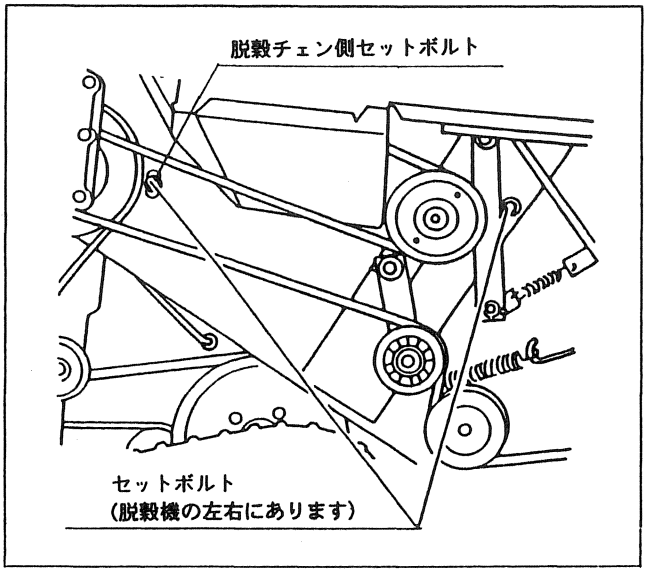
■こぎ歯、受網のスキマ調整

こぎ歯の先端と受網とのスキマは３～５ミリとなるようにセットボルトをゆるめて調整してください。

４カ所のセットボルトをゆるめます。脱穀チェン側セットボルトの穴が長穴になっています。上下調節してください。

セットボルトは元通りに締付けてください。

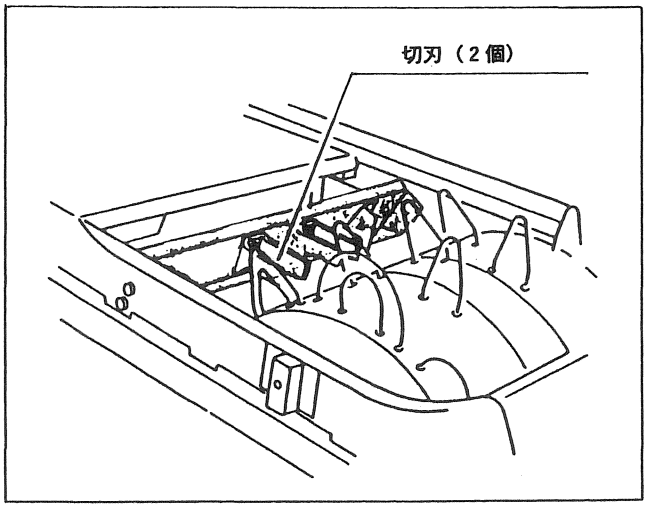




■切刃の交換

> **警告**
>
> 切刃の脱着は手袋を着用して、刃先に触らないようにしてください。

切刃の切れ味が悪くなると籾の飛散が増えたりゴトゴト音を発生したりしますので、交換してください。

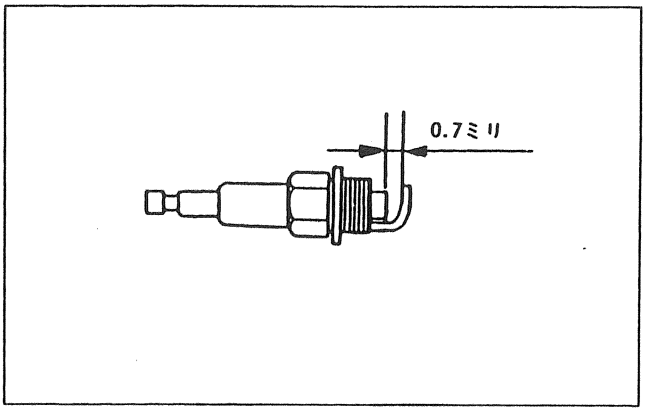


■点火プラグの調整

警告

(1) 点火プラグの点検調整は、エンジンが冷えてから行なってください。

(2) 高圧コードに触れているときは、スタータロープを引かないでください。感電することがあります。



付属のプラグレンチを使って点火プラグをはずします。カーボンが付着していたら、ワイヤーブラシか鉄片で取り除いてください。

■長期格納時の手入れ

⚠ 警告

(1) 清掃をする時は、回転部など大変危険ですので、必ずエンジンを停止し、エンジンや作動部が停止したことを確認してから行なってください。

(2) シートカバーは、エンジン、マフラーおよび発熱部が冷えてからかけてください。

(3) 格納は平らな場所を選び、ハーベスタが動かないように歯止めをしてください。

(4) 火災防止のため、長期格納時は、燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取ってください。

(5) 燃料漏れがないか点検し、異常があればお買い上げ先で修理してください。

重要

●機械を長持ちさせるため、必ず手入れをしてください。

■清掃のしかた

(1) 各部についた泥やワラ屑を取除いてください。

重要

●脱穀内部、エンジン部、電装品などには水をかけないでください。

(2) 脱穀部の各掃除口を開け、内部の残粒を取除いてください。

「各部の清掃」42ページを参照してください。

■燃料の抜き取り

(1) 燃料コックを「排出」にして、燃料タンク、キャブレター内の燃料を容器に抜き取ります。

重要

●キャブレター内の燃料をそのまま放置すると、次シーズンにエンジン始動不良の原因となります。

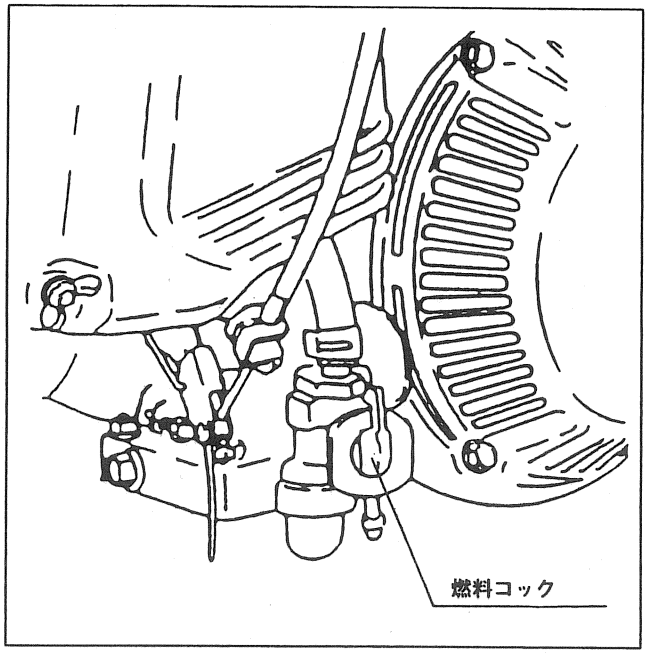
■格納のしかた

(1) 湿気の少ない風通しの良い所に板をしいて、機械をのせてください。

(2) 各レバーは「切」にしてください。

(3) 稲置台や籾受台を折りたたんでください。

(4) シートカバーをかけてください。



サービス資料

■推奨潤滑油一覧表

区　分		商　品　名	SAE	API
ガソリン エンジンオイル		ガソリンエンジンオイル	10W－30	SF級以上
ギヤーオイル	走行ミッション	ギヤーオイル	90	GL-5以上
	脱穀ギヤーボックス	シェルGCオイル100 SE (シェル石油)		
一般グリース		ユニルーフNo.2（協同油脂） 他有名メーカのリチューム系一般グリース		
燃　料		無鉛ガソリン（有名メーカ品）		

■純正オイル一覧表

区　分		商　品　名	SAE	API	容量	注文コード番号
エンジンオイル		スーパーマルチGDオイル	10W－30	SL	20L	35201 50210
					4L	35201 50231
		スーパーマルチSTOUオイル	10W－30	SD	20L	35201 50010
					4L	35201 50031
ギヤーオイル	走行ミッション	スーパーマルチSHPオイル	90	GL－5	20L	35201 50310

■諸　元

名称			MH56
型式名			HMG300
区分			−
機体質量（重量）（kg）			236
機体寸法	全長（作業時）（mm）		1650(2200)
	全幅（作業時）（mm）		1020(1830)
	全高（作業時）（mm）		1250(1110)
エンジン	種類		空冷4サイクル傾斜形頭上弁式ガソリンエンジン
	型式名		FE170G
	総排気量（cc {L}）		171 {0.171}
	出力／回転数（PS{kW}／rpm）		定格3.8 {2.8} ／1800（最大5.3 {3.8}）
	使用燃料		無鉛ガソリン
	燃料タンク容量（L）		4.0
	始動方式		リコイルスタータ
走行部	変速方式		ギヤー変速、前進2段、後進1段
	走行速度（m／秒）(エンジン定格回転速度時)	前進	0.40、0.98
		後進	0.24
脱穀部	脱穀方式		下こぎ
	こぎ胴	径×幅（mm）	382×350
		回転速度（rpm）	500（イネ、ムギ）
	選別方式		吸引、揺動
	穀粒搬送方法		ラセン揚穀
	穀粒取出方式		オーバーフロー付前後2口袋詰め（シャッター付）
作業能率（分／10アール）			60〜90

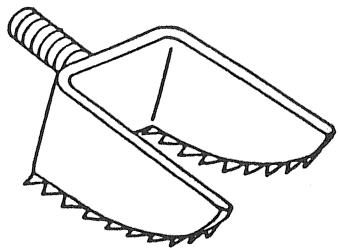
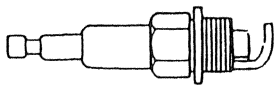
作業能率は籾を75kg／俵として籾流量750kg／時（10俵／時）を最高値としますが、作物条件（乾燥度合、反当収量、脱粒性等）によって変化します。

■主な消耗部品一覧表

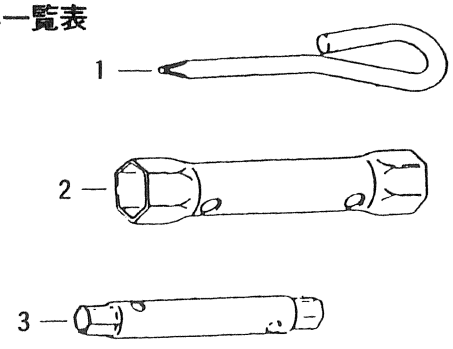
主要な消耗部品を表示しました。

ご注文の際は、部品番号をお知らせください。

なお、その他の部品ご注文の際は、販売店・農協に純正部品表「パーツリスト」を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

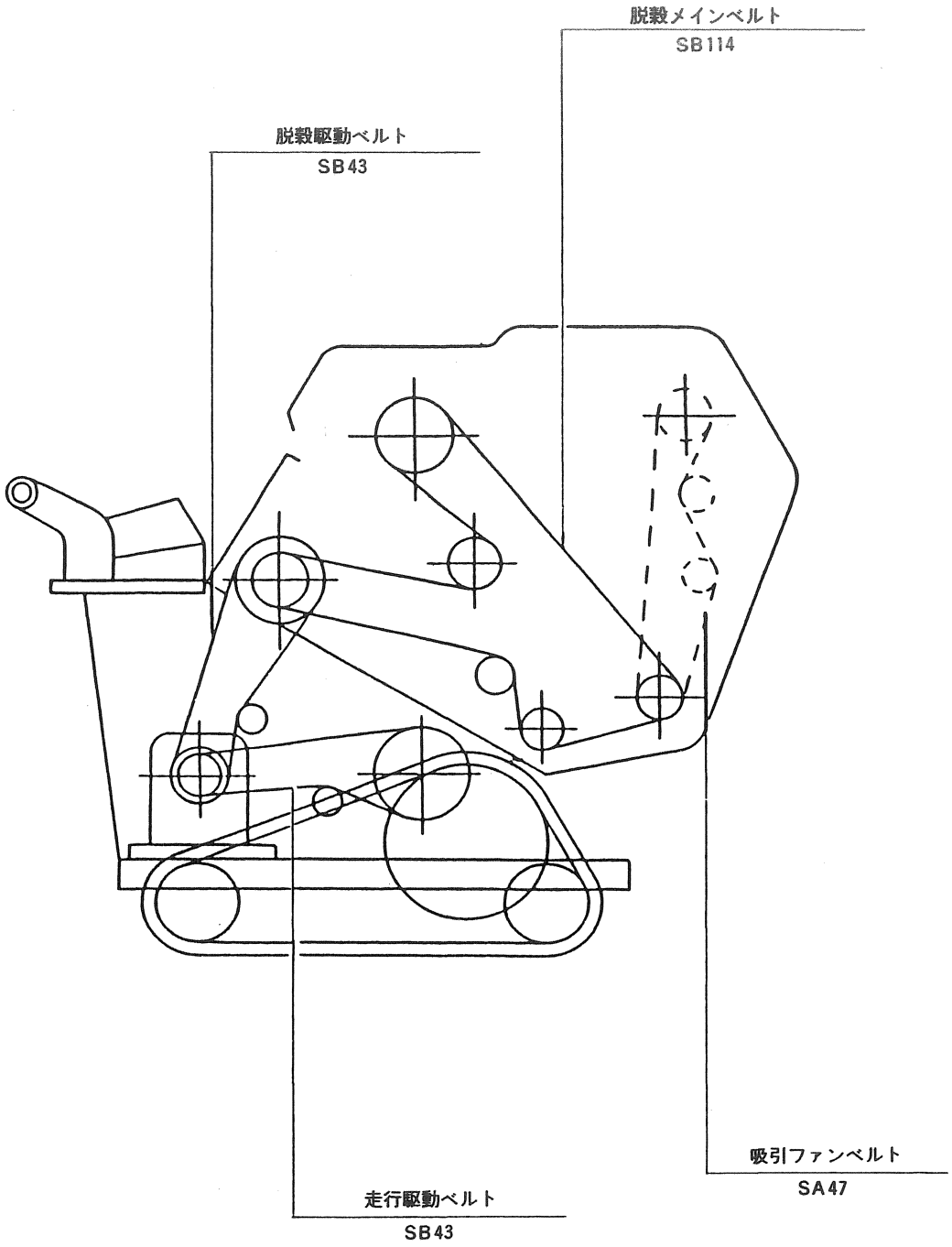
形　　状	品　　名	品　　番
	キリハ COMP	９７３１―０００―６３０
	プラグ (NGK BP−5ES)	２６９４―１０００―６４０

■付属工具一覧表



番号	品　　名	個数
1	ツール（ドライバ）	1
2	ソケットレンチ	1
3	ツール（レンチ）　8×10	1

■ベルトサイズ一覧表



重要

- 各ベルトは必ず弊社純正部品を使用してください。

  これ以外のベルトでは十分な耐久性と伝達性能を発揮できません。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

機械番号(製造番号)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

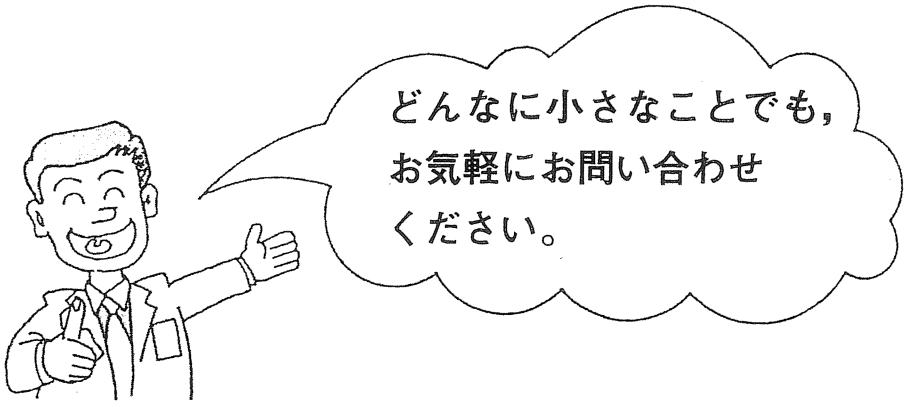
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 ＿＿＿＿＿ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

TEL　　(　　)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿